総務民生委員会会議録

1. 日 時 平成29年9月6日(水曜日)
午前9時30分～午後1時59分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 戎屋昭彦 委員長 猶野智和 副委員長
竹岡昌治 委員 安富法明 委員
山中佳子 委員 三好睦子 委員
高木法生 委員 末永義美 委員
荒山光広 議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員
綿谷敦朗 議会事務局長 大塚 享 議会事務局長補佐
篠田真理 議会事務局主任
6. 説明のため出席した者の職氏名
篠田洋司 副市長 高橋睦夫 病院事業管理者
波佐間 敏 上下水道事業管理者 大野義昭 市民福祉部長
石田淳司 市長公室長 田辺 剛 総務部長
河村充展 高齢福祉課長 杉原功一 上下水道局長
安村芳武 病院事業局管理部長 東城泰典 美東総合支所長
鮎川弘子 秋芳総合支所長 佐々木昭治 総務課長
松永 潤 消防長 奥田源良 監査委員事務局長
岡田健二 施設課長 三戸昌子 上下水道局次長
古屋壮之 経営管理課長 細田清治 会計管理者
竹内正夫 財政課長 石津稔行 消防本部予防課長
岡崎輝義 市立病院事務長 西山宏史 美東病院事務長
古屋敦子 生活環境課長
7. 会議の次第は次のとおりである。

午前9時30分開会

○委員長（戒屋昭彦君） おはようございます。ただいまより、総務民生委員会を開会いたします。

それでは、さきの本会議におきまして、本委員会に付託されました市長提出議案13件につきまして、審査いたしたいと思っておりますので、御協力をよろしく願いいたします。

議長、報告等ございますか。

○議長（荒山光広君） 特にございません。

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、最初に、議案第59号平成28年度美祢市水道事業剰余金の処分について、及び議案第60号平成28年度美祢市水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。関連がありますので、執行部より一括して説明を求めます。三戸上下水道局次長。

○上下水道局次長（三戸昌子君） 黒い背表紙の決算書を御用意ください。

議案第59号平成28年度美祢市水道事業剰余金の処分について、及び議案第60号平成28年度美祢市水道事業会計決算の認定についてを説明をいたします。

決算書の1ページ、2ページをお開きください。平成28年度美祢市水道事業決算報告書でございます。

まず、収益的収入及び支出でございます。ページ上の表、収入の消費税込みの決算額でございますが、上水道事業収益は、決算額が3億248万3,804円でございます。簡易水道事業収益は4行目をごらんください。5億216万2,425円でございます。一番下の行をごらんください。上水道の事業収益と3簡易水道事業収益を合わせまして、合計は8億464万6,229円になりました。

次に、収益的支出を御説明をいたします。支出の消費税込みの決算額は、上水道事業費は2億6,169万681円でございます。6行目、簡易水道事業費4億1,320万2,906円でございます。合計は一番下の行をごらんください。合計は6億7,489万3,587円でございます。

この結果、税込みの収入支出の差引額は1億2,975万2,642円の収入超過であります。

では、3ページ、4ページをお開きください。資本的収支の御説明をいたします。まず、収入でございますが、決算額は右ページでございます。

平成27年度からの繰越財源を9,950万円を含めまして、8億2,874万6,600円でございます。内訳は、企業債が7億190万円、繰入金が15万2,000円、負担金及び寄附金819万5,600円、国庫支出金5,404万2,000円、出資金が6,445万7,000円でございます。

では、下の欄の資本的支出をごらんください。

支出の決算額は、10億8,086万8,954円でございます。第1項の建設改良費は、地方公営企業法第26条の規定により、平成27年度から上水道拡張事業の建設費を1億188万円繰り越しておりましたものを含めまして、8億6,217万140円を支出しております。

また、同26条の規定により4,108万3,000円を、次年度に繰り越すものがございます。これは、6月議会で繰り越しの御報告をしておりますが、祖父ヶ瀬上水場の基本設計及び簡易、簡水統合事業（上野・秋吉）の基本設計に係る繰り越しでございます。

次に、第2項企業債償還金を、2億1,869万8,814円支出いたしました。

左のページの下の文書をごらんください。補てん財源の説明でございます。この収支の結果、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2億5,212万2,354円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額5,860万2,612円、過年度分損益勘定留保資金1億1,012万3,767円、及び当年度分損益勘定留保資金8,339万5,975円で補てんいたしました。

では、5ページをお開きください。

次に、財務諸表についての御説明をいたします。5ページ、6ページでございます。損益計算書の――平成28年度美祢市水道事業損益計算書でございます。

6ページ下から3行目をごらんください。当年度純利益が7,097万7,228円になりました。これと、その下の行でございますが、前年度からの繰越利益剰余金の753万1,920円と合わせまして、当年度の未処分利益剰余金は7,850万9,148円となりました。

では、次ページ、7ページ、8ページをお開きください。剰余金計算書（案）の御説明でございます。失礼しました。剰余金計算書の御説明でございます。

美祢市水道事業剰余金計算書で、この表の見方でございますが、一番左の列に資本金と剰余金の変動事由をお示ししてございます。各列は資本金と剰余金の明細でござ

います。右ページ、一番右の列が資本の合計でございます。ページ中ほどの行に当年度変動額をお示ししております。

さて、平成28年度決算は当年度変動額を御説明しますと、右のページ、一番右の列の中ほど――下から4行目でございます。当年度の変動額は1億3,543万4,228円でございます。

内訳でございますが、下から3行目出資金の増加により資本金が6,445万7,000円増加いたしました。これは、建設改良事業に係る出資金でございます。

その下の表をごらんください。未処分利益剰余金による増加が7,097万7,228円ございまして、当年度変動額の合計は先ほど申し上げましたとおり、1億3,543万4,228円でございます。

では、1枚めくられまして、9ページをお開きくださいませ。

議案第59号平成28年度美祢市水道事業剰余金の処分についての御説明をいたします。

未処分利益剰余金を処分する案でございます。一番右の列をごらんください。

先ほど御説明いたしました未処分利益剰余金が、7,850万9,148円ございますが、そのうち7,000万円を議会の議決による処分とするものでございます。

内訳は減債積立金への積立が3,000万円、建設改良積立金への積立が4,000万円でございます。残余の850万9,148円は繰越剰余金にするものでございます。

では、議案第60号決算の認定についてに戻ります。右のページ、10ページをごらんください。

平成28年度末の美祢市水道事業貸借対照表の御説明を申し上げます。ページ10ページ下から4分の1あたりをごらんください。資産の合計は83億1,737万4,266円でございます。

次のページ、11ページをごらんください。一番下の行でございます。負債合計は63億1,717万6,360円でございます。

続いて12ページ、一番下から2行目をごらんください。資本の合計は20億19万7,906円、負債資本合計は83億1,737万4,266円でございます。

次に、事業の報告をいたしますので、3枚めくられまして15ページ、16ページをお開きください。

2 建設工事の概要について、主なものを申し上げます。

まず、平成27年度からの繰越事業の御説明をいたします。地方公営企業法第26条の規定による繰越額、繰越処分額でございます。

これは、美東簡易水道硬度低減化施設整備事業、機械設備軟水化反応塔の工事でございます。9,951万9,520円を執行いたしました。

次に、現年度の上水道事業の御説明をいたします。

平成28年度の主なものは一番上と上水道事業では、平成28年度の主なものは一番上と2番目、入見配水池の増補改良工事でございます。2工事合わせまして2,712万5,280円を執行しております。

次に、3行目の内川配水池法面補修工事1,464万8,040円と上水道合計は11工事でございます。下の合計のとおり5,214万4,900円であります。

次に、簡易水道事業では、この表をまとめまして主なものを申し上げますと、一番上、簡易水道排水設備改良費の一番上でございますが、一番上の於福簡易水道拡張事業（田代地区）工事が、上から4件、4工事ありますが、合計を申し上げますと3,463万7,700円でございます。

その下の秋吉台配水池更新事業は、これも4工事あります。上から秋吉台配水池構造工事の土木工事、その下の電気工事、配管工事、場内整備工事の4工事を合わせまして1億3,588万1,280円でございます。

次の簡易水道統合事業、四郎ヶ原・川東工事の6件ありまして、次の17ページ、18ページ、上から3行目まででございます。6工事、土木配管電気工事等を行いました。合計は1億877万2,200円でございます。

次に、17ページ、18ページの4行目、簡水統合事業として、秋吉地域遠隔監視装置更新事業が2,300万4,000円でございます。この工事によりまして、秋芳、美東の監視システムが統一となりました。

また、状況を上下水道局の事務室及び上水道の祖父ヶ瀬浄水場で監視できますので、事業の統合ができたものと——できたものでございます。

その下は、於福簡易水道及び厚保簡易水道の布設替えでございます。

その下、中ほどでございますが、美東簡易水道水源増補改良事業は合わせて5工事、上水設備及び導水管・配水管布設は5工事合計で、1億821万6,000円でございます。

その下です。硬度低減化施設整備事業、場内配管、電気工事、通報監視設備、運転調整等5件ありまして、7,544万5,560円でございます。

その下からは、美東簡易水道の大田地区の配水管の布設替え、3工事合計2,822万2,560円、秋吉地区の配水管布設替え、3工事合計3,509万8,920円が合計40工事を行っております。

次のページ、19ページ、20ページをお開きください。簡易水道40工事の合計が下から3行目でございます。6億262万1,640円でございます。

一番下の行でございますが、上水道、簡易水道合わせて52工事、合計7億5,428万6,060円を執行いたしました。

では、次ページの21ページをお開きください。業務の報告をいたします。

まず、上の表でございます。上水道は事項の欄2番、年度末給水戸数は4,960戸でございます。5番、年間給水量は下から3行目、135万9,781立方メートルでございます。これは、前年度比97.5%でございます。

次に下の表、簡易水道でございますが、3つの簡易水道を合わせまして、2番給水戸数が5,319戸、5番の年間給水量は141万7,772立方メートル、前年度比が98.1%になりました。簡水ごとの明細は、次ページ以降にお示ししてございますので、お目通しをお願いいたします。

では、29ページ、30ページをお開きください。

4会計(1)重要契約の要旨(500万円以上)の表をごらんください。

工事は先ほど説明いたしましたので、主な委託契約を御説明いたします。30ページのほうになりますが、30ページ表中ほど7行目からが委託料でございます。30ページ7行目祖父ヶ瀬浄水場更新の再構築基本設計業務が2,997万2,160円、3つ行を下って簡水統合整備事業(上野・秋吉)の橋梁添架検討業務が2件、配水池基本設計の3行目の合計で、この3つの合計で、2,781万円でございます。

そのほかは、秋吉地区、綾木東部地区等の配水管布設替えに伴う測量設計を支出いたしました。

最後に、(2)起債及び一時借入金の状況を御説明いたしますと、(イ)企業債の項でございます。平成28年度の企業債の借り入れは、入見配水池増補改良、於福、厚保、四郎ヶ原、綾木東部及び秋吉簡易水道の配水管布設替事業、美東簡易水道の配

水管布設事業、於福簡易水道の田代拡張、美東簡易水道の増補改良、硬度低減化施設整備、秋吉簡易水道の配水池更新、遠隔監視装置更新、簡易水道統合整備事業、（四郎ヶ原・川東）、並びに簡易水道統合整備事業（上野・秋吉）に充当するため、上水道事業債を4,200万円、簡易水道事業債を2億8,060万円、過疎債202億7,960万を発行をいたしました。28年度末、期末の企業債残高は34億6,525万8,757円でございます。

次ページから、財務諸表付属明細書をお示ししてございますので、また、決算概要資料の最終ページにセグメントを報告しておりますので、お目通しをお願いいたします。

説明は以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、まず、議案第59号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第59号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第60号を採決いたします。本案について、原案のとおり認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第60号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第61号平成28年度美祢市公共下水道事業剰余金の処分について、及び議案第62号平成28年度美祢市公共下水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。関連がありますので、執行部より一括して説明を求めます。三戸上下水道局次長。

○上下水道局次長（三戸昌子君） 黄色い背表紙の決算書をごらんください。議案第

61号平成28年度美祢市公共下水道事業剰余金の処分について、及び議案第62号平成28年度美祢市公共下水道事業会計決算の認定についての2議案を一括して御説明をいたします。

まず、決算書の1ページ、2ページ目をお開きください。平成28年度美祢市公共下水道事業決算報告書でございます。

まず、収益的収入及び支出でございますが、上の表でございます。収入の消費税込みの決算額は右ページでございます。6億731万2,172円になりました。このうち、営業収益が1億5,896万7,500円、営業外収益が4億4,834万4,672円でございます。

下の表をごらんください。支出の表でございます。

支出の消費税込みの決算額は、5億4,880万3,021円でございます。営業費用が4億7,640万8,914円、営業外費用が7,239万4,107円でございます。この収支の結果、税込みの収支——税込みの収入支出の差額でございますが、5,850万9,151円の収入の超過であります。

3ページ、4ページをお開きください。資本的収入及び支出の御説明をいたします。

まず、収入でございますが、決算額は3億8,065万1,615円でございます。内訳は企業債が5,400万円、補助金が4,647万5,000円、出資金が2億7,764万円、受益者負担金が183万9,400円、その他負担金が69万7,215円でございます。

では、下の表の支出の表をごらんください。

支出の決算額は、4億4,280万7,186円でございます。第1項の建設改良費は、1億932万8,715円でございます。

次に、第2項企業債償還金が、3億3,347万8,471円です。左のページの下に、補填について説明をしております。資本的収入額が資本的支出額に不足する額6,215万5,571円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額の453万3,662円、及び当年度分損益勘定留保資金5,762万1,909円で補填をいたしました。

次に、財務諸表についての御説明をいたしますので、2枚めくられまして5ページからの損益計算書をお開きください。

平成28年度美祢市公共下水道事業損益計算書でございますが、下から3行目の純

利益をごらんください。

当年度の純利益は、5,397万5,489円でございます。これをその下の表の前年度からの繰越利益剰余金の2億2,304万3,776円と合わせますと、当年度の未処分利益剰余金は一番下の行でございます。2億7,701万9,265円でございます。

次ページの6ページ、7ページをお開きください。剰余金計算書を御説明いたします。平成28年度美祢市公共下水道事業剰余金の計算書でございます。ページ中ほど上から5行目、下からも5行目でございますが、当年度変動額の行をごらんください。

当年度変動額の合計は、一番右の列、3億3,231万2,704円でございます。

内容を御説明いたしますと、下の行——その下の行でございます。一般会計出資金の受け入れにより資本金が2億7,764万円の増加、下水道事業協力金の受け入れにより、その他資本金が69万7,215円増加、当年度純利益により未処分利益剰余金が5,397万5,489円増加するものでございます。

当年度未処分利益剰余金の合計は、一番下の行の右から3列目をごらんください。合わせて2億7,701万9,265円であります。

ここで、議案第61号の平成28年度美祢市公共下水道事業会計剰余金の処分について御説明をいたしますので、次のページの8ページをお開きください。

剰余金処分計算書（案）でございます。今御説明しました未処分利益剰余金の当年度末の残高は、一番右の列の一番上の行でございますが、2億7,701万9,265円でございます。

その中から、議会の議決により処分額を2億5,000万円処分するものでございます。内訳は減債積立金の積み立てが1億3,000万円、建設改良積立金の積み立てが1億2,000万円でございます。

処分後の未処分利益剰余金の残余には、一番右の欄の一番下でございますが、2,701万9,265円になるものでございます。

以上が、剰余金処分（案）についての御説明でございます。

では、決算説明に戻りますので、次のページの9ページをごらんくださいませ。

平成28年度美祢市公共下水道事業の貸借対照表でございます。9ページ、右の列の下から3分の1ほどの二重線の行をごらんください。年度末の資産合計でございます。

すが、年度末の資産合計は105億2,149万2,692円でございます。

対しまして、次のページ、10ページ、中ほどをごらんください。中ほどに負債合計がございますが、負債合計は77億386万9,060円でございます。このなかには、繰延収益長期前受金50億2,819万2,074円を含んでおります。

ページ下から2行目、資本合計は28億1,762万3,632円、負債資本合計は105億2,149万2,692円でございます。

では、13ページをお開きください。事業の報告をいたします。

2建設工事の概要でございます。平成28年度事業の主な工事を御説明いたしますと、この表にありますように取付管及び公共柵工事が、この表にあげてますとおり7件、吉則地区、麦川町下地区等の工事でございます。工事請負費が合計——工事請負費合計というところでございますが、合計が2,064万3,120円でございます。

委託料は美祢市浄化センター改築更新工事の反応タンク及び脱水機補機設備を更新しております。これが8,450万円でございます。そのほかには、万倉地地区枝線管渠布設実施設計業務を行っておりまして、172万8,000円でございます。委託料の合計が8,622万8,000円、工事請負費と委託料の合計は1億687万1,120円でございます。

次に、14ページをごらんください。業務の報告をいたします。

一番上の年度末処理区の面積でございますが、28年度のところです。626.71ヘクタールでございます。一番右の列にありますように、前年度との比較——その隣の列にありますように——済みません、失礼いたしました。前年度との比較をいたしますと、0.29ヘクタールの増加でございます。

2番目の年度末管渠整備延長は、11万4,005メートルでございます。

では、6番目におりていきまして、年度末の水洗化戸数は3,594戸、昨年より8戸増加しております。

7番目の年間処理水量は110万7,751立方メートル、1万1,366立方メートル増加しております。年間有収水量は、91万8,100立方メートルでございます。前年度に比べ8,362立方メートル減少しているものでございます。

では、17ページをごらんください。

4、会計（1）重要契約の要旨でございますが、先ほどの工事請負費と委託料の説明と重なりますので、説明は省略し、（2）起債及び一時借入金の状況を御説明をい

たします。

企業債は浄化センター改築更新工事等に充当するため、下水道事業債を2,700万円、過疎債を2,700万円を発行いたしました。合計が5,400万円でございます。

また、当年度償還金は下から2行目の行でございますが、3億3,347万8,471円でございます。28年度末の企業債残高は25億6,571万2,650円になりました。

次ページからは、財務諸表の附属明細書をお示ししておりますので、お目通しをお願いいたします。

以上、御説明申し上げます。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、まず、議案第61号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第61号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第62号を採決いたします。本案について、原案のとおり認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第62号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第63号平成28年度美祢市病院等事業会計決算の認定についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。古屋経営管理課長

○経営管理課長（古屋壮之君） それでは、議案第63号平成28年度美祢市病院等事業会計決算の認定についてを御説明させていただきます。

資料につきましては、白い背表紙の決算書並びに決算附属説明資料を用いて説明さ

せていただきます。

まず、決算書の2ページをお開きいただければと思います。

最初に美祢市病院等事業会計の決算総計について御説明申し上げます。

まず、収益的収入及び支出についてでありますけれども、収入におきまして、第1款病院事業収益が決算額32億8,167万1,164円となりまして、予算額に対して1億1,450万2,836円の減となったところでございます。

続いて、第2款介護老人保健施設事業収益では、決算額3億6,779万3,419円で、予算額に対して1,027万6,581円の減となったところでございます。

最後に、第3款訪問看護事業収益では、決算額が4,243万5,719円で、予算額に対して452万8,281円の減となったところでございます。合計いたしますと、収入決算総額36億9,190万302円となったところでございます。

一方、支出におきましては、まず、第1款病院事業費用が決算額34億2,829万942円で、不用額が1億3,639万2,058円となったところでございます。

続いて、第2款介護老人保健施設事業費用が、決算額3億6,180万2,060円で不用額が817万580円となったところでございます。

最後に、第3款訪問看護事業費用、こちらにつきましては、決算額3,973万1,562円で、不用額は646万9,438円となっております。合計いたしますと、支出決算総額は38億2,982万4,564円となったところでございます。

この結果、収入支出の差し引きにつきましては、ここでは出ておりませんが、1億3,792万4,262円の損失となったところでございます。

次に、資本的収入及び支出についてでございます。4ページをお開きいただきたいと思っております。

まず、第1款病院事業資本的収入が、決算額2億6,734万9,000円、予算額に対して1,062万5,000円の減となったところでございます。

続いて、第2款介護老人保健施設事業資本的収入につきましては、決算額3,339万円、予算額に対して240万円の減となったところでございます。これらを合計いたしますと、決算額は3億73万9,000円となったところでございます。

一方、支出におきましては、第1款病院事業資本的支出が、決算額4億1,787万1,705円となりまして、不用額は1,312万3,295円となったところでございます。

次に、第2款介護老人保健施設事業資本的支出は、決算額3,286万767円となりまして、不用額は242万4,233円となったところでございます。合計いたしますと、決算額は4億5,073万2,472円となったところでございます。

この結果、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額1億4,999万3,472円、こちらにつきましては、過年度分損益勘定留保資金で補填したところでございます。

続きまして、病院等事業の施設ごとにもみた平成28年度経営状況につきまして、御説明をしたいと思います。

こちらのほうは、決算概要説明資料のほうをごらんいただければと思います。

まず、概要説明資料の32ページをお開きいただければと思います。

はじめに、美祿市立病院の決算状況についてであります。

まず、病院事業収益につきましては18億8,862万640円、対前年度比で5,536万8,995円、2.8%の減となったところでございます。このうち、病院医業収益につきましては15億5,501万1,831円、対前年度比で3,214万1,972円、2%の減となったところでございます。

なお、病院医業収益のうち、入院収益につきましては9億6,061万9,116円、入院に係る診療単価の減等によりまして、対前年度比717万7,881円の減。また、外来収益につきましては4億3,498万7,645円で、こちらにつきましては、外来患者数の減少によりまして、対前年度比1,825万9,932円の減となったところでございます。

患者数につきましては、まず入院について、延べ患者数が4万585人、1日平均で111.2人で、対前年度比1,313人、1日平均では3.9人の増をみたところでございます。

また、外来につきましては、延べ患者数が3万9,700人、1日平均158.9人で対前年度比4,030人、1日平均では16.2人の減となったところでございます。

その他医業収益につきましては、1億5,390万5,070円で対前年度比

670万4,159円の減となっております。

次に、病院医業外収益につきましては、3億1,299万5,649円、対前年度比3,653万7,859円の増をみております。

次に、病院経営改革事業につきましては、2,061万3,160円で、こちらのほうは管理経費となっております、市からの繰入金並びに管理者人件費のうち、両病院からの負担金で賄われております。

病院医業外収益のうち、一般会計からの繰出金であります他会計補助金、負担金と病院経営改革事業収益につきましては、平成28年度から特別地方交付税の算定に伴いまして、繰り出し項目の再編を行った結果として、市立病院はもとより、美東病院のほうでも大幅な変動が出ておるものでございます。

一方、支出におきましては、病院事業費用は20億8,743万1,347円、対前年度比3,606万5,769円、1.7%の減となっております。このうち、病院医業費用につきましては19億5,930万5,171円、対前年度比1,532万7,911円の減となっております。

次に、病院医業外費用につきましては6,344万4,434円、対前年度比414万4,480円の減をみております。

続いて、病院経営改革事業費用につきましては6,468万1,742円、対前年度比889万860円の減となっております。

以上の収支を差し引きました1億9,881万707円が、美祢市立病院におきましての当年度の純損失になったところでございます。

続いて33ページ、こちらのほうは、美祢市立美東病院の決算状況でございます。

まず、病院事業収益では、13億9,798万1,297円、対前年度比336万5,005円、0.2%の減となっております。

このうち、病院医業収益につきましては10億6,513万1,503円で、対前年度比309万7,425円、0.3%の減をみております。

なお、病院医業収益のうち、入院収益におきましては7億4,312万4,114円、対前年度比、入院患者数の増によりまして689万9,282円の増、また、外来収益につきましては1億9,543万280円、こちらは外来患者数の減によりまして、対前年度比1,938万7,060円の減をみたところでございます。

患者数につきましては、延べ入院患者数が3万134人、1日平均で82.6人、

対前年度比で946人、1日平均で2.9人の増、また、外来患者数につきましては、3万14人、1日平均で124人、対前年度比で2,662人、1日平均で11人の減となったところでございます。

その他医業収益につきましては1億2,657万7,109円、対前年度比939万353円の増となったところでございます。

次に、病院医業外収益につきましては、3億3,284万9,794円、対前年度比26万7,580円の減となったところでございます。

一方、支出におきましては、病院事業費用は13億4,615万3,378円、対前年度比990万1,330円、0.7%の減となったところでございます。このうち、病院医業費用につきましては12億7,323万512円で、対前年度比2,046万69円、1.6%の減をみたところでございます。

次の、病院医業外費用につきましては5,996万1,192円で、対前年度比240万2,935円の減となったところでございます。

続いて、病院経営改革事業費用につきましては1,296万1,674円、これは先ほども申しました繰り出し項目の見直しに併せて、経営改革事業費用のうち美東病院に相当する管理部人件費を、市立病院の会計のほうから移行させたものでございます。

以上の収支差し引きによりまして、美東病院では、5,182万7,919円の当年度純利益をみたところでございます。

続きまして、34ページをごらんいただければと思います。

こちらのほうは、介護老人保健施設グリーンヒル美祿の経営状況についてでございます。

まず、介護老人保健施設事業収益につきましては、3億6,739万7,930円、対前年度比141万3,106円、0.5%の減となっております。その内訳といたしましては、入所運営事業収益は3億557万4,305円、これは入所者に係る報酬単価の増に伴いまして、対前年度比153万4,880円、0.5%の増をみたところでございます。

次に、通所運営事業収益は4,427万9,617円、こちらのほうは通所者にかかる報酬単価の減に伴い、対前年度比で95万3,736円、2.1%の減をみております。

利用者数につきましては、まず、延べ入所者数は2万4,959人、1日平均では

68. 4人、対前年度比で92人の減となっております。

次に、通所者数は延べで4,435人、1日平均18.3人、対前年度比で99人、1日平均では0.5人の増をみております。

次に、運営事業外収益は1,754万4,008円で、対前年度比199万4,250円の減となっております。

一方、支出におきましては、介護老人保健施設事業費用が3億6,164万7,011円、対前年度比で196万9,524円の増となったところでございます。

以上の収支を差し引きしました結果、575万919円が当年度の純利益となったところでございます。

次の、35ページが訪問看護ステーションの経営状況でございます。

まず、訪問看護事業収益につきましては、4,238万7,208円で、対前年度比37万3,116円、0.9%の増となっております。このうち、訪問看護事業収益は3,990万377円、対前年度比34万1,813円、0.9%の増をみております。

利用者数につきましては述べ4,908人、1日平均では20.2人、対前年度比では370人、1日平均で1.5人の増となったところでございます。

次に、訪問看護事業外収益につきましては248万6,831円、対前年度比3万1,303円の増となったところでございます。

一方、支出についてでございますが、訪問看護事業費用は3,968万3,051円、対前年度比で407万1,028円、9.3%の減となっております。

このうち訪問看護事業費用は3,925万6,580円で、対前年度比400万3,650円、5.7%の増となっております。

そして、訪問看護事業外費用は42万6,471円、対前年度比で6万7,378円の減となったところでございます。

以上の収支を差し引きしました結果、270万4,157円が訪問看護事業におきます当年度の純利益となったところでございます。

以上で、説明を終わります。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

山中委員。

○委員（山中佳子君） 決算書15ページになります。

財政状況ということで市立病院だけが純損失を出していらっしゃいます。美東病院、グリーンヒル、訪問看護ステーションは純利益となっております。

特に、病院を比較しますと市立病院は1億9,881万707円の純損失、美東病院は5,187万7,919円の純利益となっております。

外来患者の減少が原因だというお話もありましたが、そのほかの原因といたしましうか、どうして外来患者がこれほど減っていると分析されているかお聞きしたいと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 執行部のほう……安村病院事業局管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 概括的な説明になりますが、プランにお示したように、少なくとも美祿の医療需要はあるという中で減少傾向にあるのは、どうしても病院以外の所に行かれているというところであります。

で、その一つは、従来、プランにも書いておりましたけど、やはり患者さんが来られるにあたって、あそこに行けばよく診てもらえるといったようなかたちの診療ということに、今、なっていないんじゃないかというのを、一つ仮説として考えております。

そこで、プランの中で、そういったところを改善していこうというふうに、今、つなげていくところですよ——いこうと、考えておるとこなんですけど。

細々いろんなことの積み重ねということはあると思いますけど、医師そのものが、非常に少ないっていったことももちろんありますけど、患者さんが来られたときの対応であるとか、あるいは、それぞれの施設であるとか、開業医の皆さんとの関係であるとか、そういったところで、いろんな連携を深めておりますけど、まだ、足りない部分があるんじゃないかというふうに考えております。

○委員長（戒屋昭彦君） よろしいですか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 27年度を見ましても、1億8,000万近くの純損失が市立病院は出ております。美東病院は4,500万円の純利益、前年度ですね。

このたびの監査決算審査意見書、これ56ページにおきまして、下から7行目ですか、昨年度から美祿市立病院の外来患者数が大幅に減少をみせている。このような変動要因についても分析・検証に努め、早急な対策をとることも自治体病院として必要なことと考えるという意見も添えられております。

平成29年3月に新美祿市病院改革プランもできておりますので、これからの改革

に期待したいと思いますが、この決算書の15ページにもありますが、最後の2行、「今後も、市民のニーズに応えながら、債権の管理を徹底するとともに事業全体の経費の見直しを図るなど、効率的な経営を行ってまいりたいと考えております。」これ、昨年度も全く同じ文言が使われております。来年度はこの文言が変わりますように期待しております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他、質疑ございませんか。高木議員。

○委員（高木法生君） 1件ほど、お伺いをしたいと思います。この、公営企業会計決算審査意見書の中の66ページでございます。26年度からちょっと見てみますと、下から6行目ですか、損益勘定留保資金が約12億4,488万9,000円ございます。これが、原因はですね、平成26年度新会計制度の移行に伴いまして、その他、未処理——未処分利益剰余金の変動額を計上したことに加えて、8億6,900万ばかりの純損失が発生したということで、一番下の約3億8,023万4,000円ということで、大変少なくなったわけでございます。

それから27年度、28年度と推移しまして、28年度末は約5,922万円ですか、この数字に激減しておると。底をつきそうになってきたというところであろうかと思えます。

このことがまた、来年も赤字等が多少でも続けばですね、この辺の問題が大変重要視されてくるんじゃないかと思えます。補てん財源が無かったら、現金、あるいは預金でですね、カバーせんにゃならんと。そうすると、流動資産が減ってまいりまして、今はまだ6億ばかり流動資産のほうが上回っておりますからよろしいんですけども、これが逆転いたしますと、不良債務が発生するということで、不良債務が発生すると国からの制限があつて、10%以上になると起債が借りにくくなると、経営健全化計画を立てんにゃいけんというような状況にもなってまいりますので、早めいろいろな手当をしておかなければならないと思いますが、そういったことで、今後どうやって推移、取り組みをされるのか、この辺のことが分かれば教えていただきたいと思えます。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 高木委員の御質問にお答えしたいと思います。

委員御指摘のとおり、この補填財源、こちらのほうが枯渇してくると、当然、病院

ですから、施設だったり、医療機器の更新、設備投資等への制約が当然生じることとなります。一応、こちらの今年の3月に策定しました改革プラン、この基本方針に基づきまして、各施設において、とにかく患者を受け入れるといった体制での患者増による収益増、また、費用削減という面もございます。

参考までにこちらの本年度の新しい取り組みとして申し上げますと、今、中四国全体の自治体病院をもって、今、岡山市立市民病院、こちらのほうが医薬品の共同購入を行って、値引き率を引き上げようという動きがあります。その値引き率、現在の市立2病院には約14%の水準ですけれども、岡山市立市民病院さんでは、中四国全体で20%の値引き率を目指そうと、今されております。そちらのほうにも市立2病院、当然、参画するように今準備を進めております。

そういったこともありつつ、あと、市立病院のほうでは、平成21年度に施設整備に要した起債の借り換えを行っております。こちらのほうが大体1年間での償還が、8,800万円強の額となっておりますけれども、こちらが31年の9月で償還が完了するという動きもあります。

そういったことを踏まえまして、今、改革プランでは、平成29年から32年度までの4年間の収支計画をつくっておりますけれども、先ほど申しました患者増による収益増、また、費用削減に向けた取り組み、こちらでとにかく計上収支状況を改善しよう、していこう、そういったことの積み重ねで、目標年次の32年には、できれば3億から4億程度の損益勘定留保資金の増勢に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、申し添えたいと思います。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 高木委員。

○委員（高木法生君） ありがとうございます。

この決算概要を、ちょっと見てみましたら、材料費が美祢市立が少し比率が高かったかなと思っています。これは、薬品費というか、院外処方ですかいね——院外処方じゃない——院外処方、そしたら、ちょっと、あんまり美東病院とはちょっと差がですね、10.1と十七点いくらか。7%ぐらい材料費が高いですね。その辺の問題、先ほど話をされたので、今後またしっかり取り組みをされると思います。

それと、今後ですね、資本的収支の差が大変広いです。企業債につきましては、建設改良費とあまり差がないので、起債から入れる医療器械が多いからだろうと思う

んだけど。企業債、償還金ですね。これが、負担金とは格差がある。繰り出し基準を償還金の3分の2以下と決められておるかと思うんですけども、この辺をあんまり差を縮めようと思えば、5分の4にするとかですね、そういったことで、ここのあまり差をつけないようにしておかないと、今後大変なことになるんじゃないかなろうかという気もいたしております。

その辺の、また取り組みというか、見直しも必要じゃないかなろうかと思います。しっかり公益企業会計ということで、健全経営をよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 高木委員の御要望におきましては、今後ともしっかりと努力してまいりたいと考えております。

なお、先ほどの市立病院と美東病院との材料費の格差ですけども、特に市立病院は、今、透析センターを今運営しております。そちらの関係の材料費というところが大きく影響しているものというふうに申し添えておきます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 済みません。監査委員は意見書を出してますんで、発言ができませんから黙っていたんですが、高木委員が質問——今質問したのは、もう一つあったと思うんですが。例えば、もうちょっとわかりやすく説明していただきたいのは、28年度末が5千数百万の留保財源に対して、29年度の資本的収支はいくら使うということになっていたんだろかなど。

で、それが賄えるかどうかという趣旨も入っていたと思うんですが、その辺のお答えはなかったような気がするんですが。

たしか29年度予算は、1億数千万あったと思うんですね。それをその5,800万の留保財源で、どのようなあれができるんかという質問だと思うんです。

したがって、現金は6億数千万あるから、それを使っても賄えるんですが、将来的に29年がまずどうなるんかと、それから将来的にどうなるんかという質問だったと思うんですが。もう少しわかりやすい説明をしていただいたらなと思うんですが。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 竹岡委員の御指摘でございますけれども、このたびの議会におきまして、病院等事業会計の補正予算第1号を提出させていただいております。これは、同じく白い背表紙のほうになるんですけれども、こちらの概要説明資料の16ページをごらんいただければと思います。

こちらのほう、今現在での補てん財源計算書になりますけれども、一応こちらのほうでは、資本的支出ということで、約7億2,000万弱の支出を予定しております。

これに対して、当然、3条予算、収益的収支が改善するものと、今、努力をしておりますけれども、そういったことを前提といたしまして、約1億3,700万円の補てんを行うかたちとなっております。

今後、30年度以降の資本的……建設改良費等の支出の状況ですけれども、美祢市立病院では約2億……30年度では約2億4,000万、31年度以降で1億7,000万円程度、また、美東病院では30年度で約3億、31年度以降で約2億強の資本的支出を予定しております。

こういったことの——こういった予定を前提といたしまして、とにかく患者増、患者の受け入れ、特に外来のほうですけれども、外来から入院へつなげるようなかたちでの収益改善を行っていく中で、繰越損益勘定留保資金の増勢に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） よろしいですか。（発言する者あり）その他質疑ございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 数点お尋ねいたします。私の記憶にないのかもしれませんが、今医師不足対策で、平成24年頃に初期診療室が開設されたように思いますが、その後の経過についてお尋ねします。これは何か報告があったのでしょうか。

それと、もう1点は、医療費の未収金が多いのですが、意見書の58ページと60ページにありますけれど、この原因は何と思われますか。この中では、患者さんの生活が大変だとか、働いていたけれど健保とか——協会健保とかに加入していたがその後失業したり、離職で国保に加入手続きをとっていなかったために、無保険の患者さんがあるのかなとか思いますが、どのようになっているのでしょうか。お尋ねいたします。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

- 経営管理課長（古屋壮之君） 三好委員、済みません。ちょっと、1点目の質問がよく聞こえなかったんで、もう一度よろしいですか。
- 委員（三好睦子君） あのうですね……。
- 委員長（戒屋昭彦君） 三好委員一つずつ、あの……。
- 委員（三好睦子君） 一問一答で。
- 委員長（戒屋昭彦君） 一問一答っていうか、全部言われると、回答も困りますんで。執行部の方が答えられやすく一問一答でお願いできたらと。三好委員。
- 委員（三好睦子君） 初期診療室というのがありましたが、その後の経過をお尋ねします。
- 委員長（戒屋昭彦君） はい、古屋経営管理課長。
- 経営管理課長（古屋壮之君） 三好委員の御質問にお答えしたいと思います。
- 現在、美祢市立病院、言われるように初期診療室、美祢市立病院に置いております。こちらのほうは、平成24年だったと思いますけど、文科省の補助事業を使う中で、山大の協力を得て美祢市立病院のほうに設置したところでございます。
- ただこれは、単年度の補助事業だったということでありましてけれども、それ以降も山口大学医学部救急学講座のほうから、週1回診察をしていただいております。
- 初期診療室のほうは以上でございます。
- 委員長（戒屋昭彦君） はい。次の……。
- 委員（三好睦子君） ありがとうございました。次は、意見書の中の58ページと60ページなんですけど、医療費の未収金——済みません。未収金でしたかね。が多いんですが、原因はいろいろあると思いますが、その中で保険に入っていない、無保険の方がいるのではないかと思うのですが、これはどうでしょうか。
- 委員長（戒屋昭彦君） 三好委員、これは先だって一般質問でも、本会議でもありましたように、その時期の締めはずれ等があるかと思いますが、未収金のものについて……。
- 委員（三好睦子君） 時期的なものがあるということですが、私が問題にしたいのは、保険証がなく……無保険の方がいるのではないかと思ったんですが。その点はどうか。
- 委員長（戒屋昭彦君） 執行部のほう、今の三好委員の質問はおわかりになりました

たでしょうか。

三好委員、今の御質問については、保険証がない方が病院に行って受診されたときに、費用を支払いをしてないかというような質問ですか。

○委員（三好睦子君） 未収金が多いので、そういったことが原因であるのではないかと考えたんですが、原因についてお尋ねします。保険証がなくてっていうことがあるのかどうかをお尋ねします。

○委員長（戒屋昭彦君） 今、執行部のほうでお答え、ちょっと困っていらっしゃるかもわかりません。今、多分三好委員のほうは、保険証がなくて病院のほうで支払いができなくて、そのあたりでの未収金が入っているんじゃないかという質問だと思います。ちょっと、私はこの未収金の意味とは、ちょっと違うと思うんですけど。そのあたり病院のほうで、保険証のない方が受診されたときの支払いについて、未収があるかどうかのそこだけお答え願えたらと思います。

古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 未収金となっているなかで、無保険の方がおられるかということだと思いますけれども。一応、今考えるなかでは、そういった方は、まずおられないんじゃないかと。もしあるとすれば、外国人観光客の方が、急遽かかられたというようなケースぐらいしか、考えられないんじゃないかというふうに思います。以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） じゃあ、もう1件。三好委員。

○委員（三好睦子君） ありがとうございます。私が思うには資格証とかで、始めに全額払って、払わなければならないと。そういったことが、未払いにつながるのではないかと考えたのでお尋ねしました。

それから、決算書の中ほどの18ページなんですけど、中ほどに健康診断の数字が載っておりますが、これは、美祢市は健康診断率がよくて県内でトップなんですけど、集団検診もカウントされているのでしょうか。病院だけでなく、地区でやる集団検診も入っているかどうかをお尋ねします。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長

○経営管理課長（古屋壮之君） 三好委員の御質問ですけれども、ここに健康診断、予防接種等挙げております。

美祢市立病院、美東病院、それぞれ各地域の集団検診等の受け入れといたしますか、

業務請負を行っておりますので、そちらの件数がここに挙がっておるものと思います。
以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） はい、ここで、大変申し訳ありません。ここで、11時までちょっと、暫時休憩したいと思います。よろしくお願いします。

午前10時48分休憩

午前11時00分再開

○委員長（戒屋昭彦君） 休憩前に続き、委員会を開きます。古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 先ほどの、三好委員の決算書18ページの健康診断の件数の件で、集団検診等の件数が含まれているかというところで、含まれていますと、答弁させていただいたところでございますが、ここに挙げている件数につきましては市立病院、美東病院ともに、院内で行う検診の件数を挙げています。

参考までに、院外で行う住民健診等でございますけれども、大体市立病院、美東病院ともに、約800件程度の件数は毎年こなしておるところでございます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他、質疑ございませんか。安富委員。

○委員（安富法明君） 一点だけ、お伺いをいたします。監査意見書の56ページを一結びを見ておるんですが、こういうふう書いてあります。

「本会計は自治体病院事業で医業を主体とするものであることから、資本金や欠損金のみによって、病院等事業全体を判断するべきではないと考えるが、企業会計として常日頃から経営健全化に取り組むことは必要なことであり、また本市のような中山間地域の地域医療を今後も継続可能なものにすることが自治体病院の使命である。」
というふうに記載がしてあります。

それで、そのとおりだと思うんですが、先ほどから、いろいろ議論がある中で、会計上の技術といいますか、テクニックとかで改善できるようなものがあれば、当然、それはやってもらわなきゃならないと思うんですが、簡単だと思うんですが。

どうも、資金不足といいますか、足りなくなってくるよというふうな状況にあることも事実で、一番最初に山中委員が言われた、決算概要の中へ出てくる美東病院においては、当年度純利益が5,180万か。市立病院においては、1億9,880万の赤字が出てると。これがまあ、こういう傾向が続いているというのも事実ですよ。

それで、美東病院にあって、市立病院にないものが何かあるんじゃないかっていうふうに、我々感じるんですよね。それが直接その病院経営に、例えば、先ほどの説明の中にもありましたように、医療需要って言いますか、その需要はあるんだけど、どうも来ていただけないよってというふうな答弁もあったと思うんですよね。そういう状況で、ずっと推移をしておるんですが、言いましたように、二つの病院が何が違うのか。何がどっちに足りなくてっていうふうなところですよ。どういうふうに自主的に経営をされている立場からして、感じておられるのかをお伺いをしたいと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 安村病院事業局管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 市立病院と美東病院、それぞれ個性をもっておりますけど、大きく違うところっていうのは、今、それぞれの市民の方の受け止めとして、美東病院が非常にアットホームであるという受け止めをされてます。

そういったところは、受け止めの問題としては、そういったところがあるんであるうというふうに推測はしております。

ただ、先ほど山中委員にお答えしたなかで、ちょっと説明不足だった点がありまして、この両病院とも、実際に両病院が診れる患者さんが、十分には来ていないということは、その原因の一つは、それぞれの病院が何ができるかというのを、十分に理解していただけてないんじゃないかっていうことがあります。

それはなぜ、そう思うかと言いますと、今年度に入ってプランに基づいて、いろんな広報……MY Tを使った特別番組であるとか、市の広報を使ったもので、それぞれ周知を図りつつありますけど、それぞれの病院が何ができるかについて、少しずつ理解していただいて、テレビを見たから来ましたと。広報でこういうことできると分かったから来ましたという患者さんが少しずつふえているというところがあります。

で、一つには、十分この病院二つ——市に二つの病院があって、非常に大きな価値をもっている、このそれぞれの病院の機能ですね、役割っていうのをどこまでわかっていただけてるか。より美東のほうがわかっていただけておるかもしれませんけど、美東もまだまだふえると思います。

で、市立はもっともっとふやさんにやいけんし、先ほどから、お話出ておりますように、資金が非常に底をついてきているっていう、非常に危機的な状況の中で、そういった役割を十分に果たしていくしかないと思っております。

で、その役割を果たすためには、十分、市民の方に何ができるかを理解していただきたいし、その機能を高めるために日々さまざまな仕組みをつくろうと、実際に全職員が一生懸命頑張っているという状況であります。

ちょっと今、お答えになりましたか、お答えになっていますか、ちょっとわかりませんが。

○委員長（戒屋昭彦君） 安富委員。

○委員（安富法明君） やっぱり経営側として、今のような私の問いにですね、お答えになりましたかって、なりましたかねっていうことじゃあ、やっぱりいけないと思うんですよね。やっぱり、十分に市民に――要するに、市民の方が二つの病院にきちんと行っていただく。で、片方は何とか黒字になっていくよと、片方は、何て言うんですかね、あんまり……私は美東病院しか行ったことありません。ですから直接、個人的な……その何て言いますかね、感覚的にこっちがこうでどうのっていうのは比べることはできません。

でも、聞いている限りではですね、以前にも末永委員かな……からのあれもあったと思うんですが、どうもひとつ、市民病院のほうの受けがよくないようなことをお聞きをします。

ですから、そういうところをですね、まず、できることっていうことは、そういうことは、技術的なドクターが足りないとか、看護師さんが足りないよっていうのは厳しい中ではあるかと思うんですが、取り組めると思うんですよね。意識の改革ですから。だからその辺は、ぜひ、十分に、優先的に十分にやっていただきたいというふうに思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 高橋病院事業管理者。

○病院事業管理者（高橋睦夫君） 先ほど、安村部長が言ったことに、ちょっと補足をさせていただきますけれども。私の考えも含めてですね。

確かに、今委員がおっしゃられたように、医者意識改革が一番やっぱり必要じゃないかと思っております。とにかく、市民が受診したい病院、あそこの病院に行ったら何とかしてくれるというような。医者がもっとですね、本当いうと、サービス精神みたいなものを発揮して、現在、医業というのはサービス業であるということを、少し認識不足の点が市立病院の医師の中にあるんかもしれないなど。で、その辺をもっとこう、私がトップダウンで意識改革をしていこうというふうに思っております。

それともう一つは、やはり医師をですね、常勤医師をもうちょっとふやすと。整形外科医とかですね、今の病院に専門——いろいろ外科とか内科とかありますけど、それ以外の科の常勤をふやす。やはり収益を上げるためには、やっぱり医者が患者さんを診て、それがまず第一でありますので、医者をおと二、三人ぐらいふやしたいなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他、質疑はございませんか。末永委員。

○委員（末永義美君） 質問する前に、今のお話の中であつたように、私も前言いましたけども、意識改革。これ大事ですけども、すごく難しい問題でして、医師としての資質とかもありますし、本当に思いやる気持ちがあるか。それを病院側サイドが、どう教えるというか、お願いするというか、また待つか。でも、そこは何とかクリアしてほしいんですね。前のように、患者と一度も目を合わせないで、淡々と診療する方、どこかが痛いと言ったら、みんなどこかが痛いんですよっていう言葉を返されちゃう医師。どうか、時間をかけてほしい部分と、でもきょうも治療にお伺いしている患者さんがいますので、どこかはじっくりと、でも、どこかは急速にお願いしたいということ、ちょっと添えてですね。

決算概要説明書の資料の中にありました34ページ以降の——失礼、32ページ以降ですね、美祢市立病院と美東病院、あと、グリーンヒル、介護老人保健施設ですか、そして訪問看護ステーション、この中の給与の面で、各病院とグリーンヒルまでは、福祉職の給与及び手当がふえているんですね。これは例えば、雇用形態の変化とか、また、雇用環境の改善があつたのか、これはどのような背景があるのかということ、まず、お伺いします。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） ただいまの末永委員の御質問についてであります。

特段、美祢市立病院、美東病院、グリーンヒル、訪問看護と美祢市病院事業局を担っている施設であります。基本的には、一般職と変わらない公務員の給与体系となっております。大幅に変動があるところなんですけれども、一応、平成26年度の新制度への移行の際、所属する職員が、その時点で退職したと想定した際の退職給付金の引き当てを行っていかなければならないというふうに変更されております。

このたび市立病院では、給与費は前年度と比較して3,000万強、美東病院では

3,000万弱の増額となっておりますけども、ここの大きな原因につきましては、その退職給付費の引当金の増加に伴う給付額となっております。

こちらのほうは、26年度から始まっておりますけれども、27年度で若干算定誤りで、退職給付金の引当額が少なかったことが影響したため、平成28年度で調整を行っておるところでございます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 末永委員。

○委員（末永義美君） わかりました。そうしますと、私が先ほど申し上げた、これからの場面においても、福祉医療関係の人材の確保と育成っていうのが、ものすごく重要になっているという思いからですけども、退職金云々というよりも、今この美祢市立病院と美東病院におかれては、いわゆる、看護師さん以外の正式な名称はわかりませんが、介助員さんとか、介護員さんとかですね、そのような医療や看護を強くサポートするような職員さん——それは正規職員にしる、パートにしる、その辺の方々の変動とか、増減があったのかと思ったんですけども。看護師さん以外の介助、介護員さんという……仮の名称ですけど、そういった方々は、今、両病院でどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 末永委員の御質問ですけども、決算書の16ページをごらんいただければと思います。こちらの中ほどの、（4）職員に関する事項ということで、各施設における職員の配置状況を前年度と、27年度、28年度の比較として掲げております。

当然、医師職については、医師そのものであり、看護職は看護師、ここで福祉職と出ておりますけれども、こちらは介護福祉士の資格を持った職員でございます。こちらのほうでは、市立病院、美東病院、老健のグリーンヒル美祢のほうで配置をしております。正職員または臨時的な任用に伴う職員については、28年度全体では、62名の配置を行っております。

参考までに、その下の医療技術職という部分ですけども、こちらのほうは薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技師、管理栄養士といった職種のまとまりというふうになっておるところでございます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 末永委員。

○委員（末永義美君） わかりました。それでは、最後にもう一つだけですね、美祢市立病院と訪問看護ステーションのほうで、同様に今度逆に看護職の給料手当が減っているんですね。これは、同じく単純に対象者が多かったのかとか、この辺の訪問看護と市立病院のほうの看護職の給料等手当が減ってきているのは、何か背景があるのでしょうか。どのような背景があるのか、お伺いします。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 末永委員の御質問でございますけれども、市立病院と訪問看護ステーションのほうで、看護職の給料——人件費が減っているということなんですけれども。こちらのほうは、特に訪問看護ステーションは、27年度末での急な職員の退職がございまして、1名の減というところ——人員の減というところが大きな原因となっております。

同じくして、市立病院のほうも同様な理由になろうかと思えます。単価が減った……引き下げられたとか、そういった事由はないというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） はい、関連ですか。末永委員。

○委員（末永義美君） わかりました。医師、技術者等含めて、看護職の方の人材といえますか、これは人が病に苦しんで完治して退院するまで、または通院が終わるまで、とても重要なポストにいらっしゃる方だと思いますので、看護師さんにとっても、より働きやすい環境整備を市立病院と美東病院を含めた、あと、訪問看護も含めてですね、よりよい環境のために、かけるべきところはお金をかけるというような思いがあってほしいなということを希望しまして終わります。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、これより議案第63号を採決いたします。本案について、原案のとおり認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第63号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第70号美祢市介護保険条例の一部改正についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） それでは、議案第70号美祢市介護保険条例の一部改正について、御説明させていただきます。

議案書につきましては、70-1ページ、参考資料については4ページとなりますので、御準備をお願いいたします。

このたびの改正は、平成29年6月2日に公布されました地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律の施行に伴い、介護保険条例を一部改正するものでございます。

改正の内容につきましては、介護保険法第214条第3項の規定に基づく介護保険条例第15条に規定する過料について対象者の範囲が見直され、第2号被保険者の配偶者やその世帯についても対象となりましたことから、所要の改正を行うものでございます。

なお、この条例の施行日は、公布の日からとしております。

説明については、以上となります。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） これについて、ちょっと。202の1項とか3項とかですが、特に3項なんですけど。この3項について……規定に該当する——規定による当該職員の質問に対して回答せず、もしくは虚偽の答弁をしたときは、これ介護を受ける方たち——市民と思いますが、この職員さんの質問に対してと、回答せず、虚偽の答弁をしたときは10万円以下の過料に課するって、これって、ちょっと詳しくお願いします。この件について。

○委員長（戒屋昭彦君） 今これ……この公布の日から施行すると、まだ改正されてませんが、そこで詳しく説明が必要でございませうか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 職員さんの質問とかに答えないときは、この過料、罰金——罰金、過料か同じようなものでしょうけど、あるということなんですか。

○委員長（戒屋昭彦君） 三好委員。先ほど、河村高齢福祉課長から、この美祢市介護条例の新旧の改正の説明がありましたが、現行と改正案につきまして、今ここの10万円、虚偽の云々くんぬんということは、10万円以下の過料については、別に変更ございませんので、その質問がやっぱり回答必要でございますか。変わったところについての質問をしていただきたいと思いますけど。三好委員。

○委員（三好睦子君） 変わってないと言われますけど、質問に対して答弁せずとか、虚偽の答弁とか、どういうことを意味するのでしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） あの、今執行部のほう御回答、これが難しゅうございましたら、のちほど、調査しまして御回答していただけたらと思います。大丈夫ですか。河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 今、三好委員のほうから質問いただいたところで、虚偽の答弁の意味ということですか。

当然のことながら、介護保険法、サービス等を利用していただく際に、いろんな申請書等御記入いただく、また、それに伴って税務調査等させていただくということになります。そういった中で、お話をお伺いする中で、例えば世帯構成とか、例えば聞いたとしたときに、実際は1人であるのに2人とか、逆に3人家族なのに1人とかってというような意味が、例えばの虚偽の答弁になろうかと思うんですけども。

御質問の趣旨が、ちょっとよくわからないので、もう一度確認をさせていただければと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） よろしゅうございますか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 今のあれでわかりました。その何ていうの——隠しごとをしてはいけないということなんですね。税金とか。わかりましたが。（発言する者あり）違うんですか（「いや」と呼ぶ者あり）職員さんが、例えば、私が介護を受けるときに、職員さんがどうですかとか、今からいろいろ——例えばですね、まず、健康な場合はチェックリストから入ると思うんですけど。そういった、いろんな制度を受けるときに、預金はどのくらいあるかとか、家族は何人おるかとか、そういった面で聞かれると思うんですけど。そういったときに、その虚偽の答弁をした場合は、罰金があるかということで今の回答でそう思ったんですが。そんなに嘘のことを言うことはないと思いますが。（発言する者あり）

○委員長（戒屋昭彦君） あの、三好委員。その件につきましては、こういった法律で

虚偽の答弁をしたときは、10万円以下の過料に処するということございますから、そのあたり、三好委員御心配でございましたら、個別で執行部のほうの方と相談していただけたらと思います。その他、質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、これより議案第70号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第70号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第71号美祢市包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部改正についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） それでは、議案第71号美祢市包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部改正について、御説明させていただきます。

議案書につきましては71-1ページ、2ページ、参考資料については5ページから7ページとなりますので、御準備をお願いいたします。

このたびの改正は、介護保険法施行規則の一部を改正する省令が施行されたことに伴い、包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例を一部改正するものでございます。改正の内容につきましては、昨年9月に導入されました主任介護支援専門員の更新制度について、5年間という更新期間をより明確化するための所要の改正というものでございます。

なお、この条例の施行日につきましては、公布の日からとしております。

説明については、以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、これより議案第71号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第71号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第72号美祢市火災予防条例の一部改正についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。石津消防本部予防課長。

○消防本部予防課長（石津稔行君） 議案第72号美祢市火災予防条例の一部改正について説明いたします。議案書は72-1ページ、参考資料8ページになります。お聞きください。

平成24年5月に広島県福山市で発生したホテル火災、平成25年2月に長崎市で発生した認知症グループホーム火災など、近年発生した火災を受け実施された調査結果では、全国的には重大な違反のある防火対象物が、なおも多く存在している状態です。

このような違反对象物に対して消防機関が命令を行った場合には、対象物等に命令の内容が公示されることとなりますが、それに至るまでには相当の時間を要することになり、その間、建物の危険性に関する情報が利用者に提供されない状態になります。

このたびの改正は、防火対象物を利用しようとする者に、当該防火対象物の消防用設備等の状況を公表し、利用者が自ら防火に対する安全性を判断できるようにするためのもので、公表上の手続き、公表の対象、公表の対象となる違反内容を定めるものです。

公表の対象となりうる建物は百貨店、旅館、ホテル等、不特定多数の者が利用する建物、及び病院、福祉施設、幼稚園など、火災が発生した場合に、一人では避難行動に時間がかかるなど、人命に及ぼす危険が高い建物です。消防法では、このような建物を特定防火対象物として定めています。重大な消防法違反のある防火対象物とは、建物に設置義務のある消防用設備等のうち、自動火災報知設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備が設置されていないものが、これにあたります。

平成29年3月31日現在、管内には1,092の防火対象物が存在し、そのうちの219施設が特定防火対象物にあたります。この特定対象物のうち、170の防火対象物に自動火災報知設備等の設置義務がありますが、現在のところ、公表の対象と

なる違反はありません。

なお、この条例は平成30年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、これより議案第72号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第72号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第65号平成29年度美祢市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。執行部より説明を求めます。河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） それでは、議案第65号平成29年度美祢市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について、御説明いたします。

補正予算書につきましては、65—1ページからになります。

このたびの補正は、地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律の公布に伴う介護保険制度の改正に対応するためのシステム改修費の計上、及び平成28年度の決算の結果、発生いたします繰越金の基金への積み立て、また、平成28年度における事業の精算の結果、超過交付となりました過年度、国、県補助金等の返還に伴い既定予算の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ8,924万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ35億1,009万円とするものでございます。

それでは、65—10ページ、11ページをお開きください。

最初に、歳出について御説明いたします。1款総務費・1項総務管理費・1目一般管理費でございます。説明欄002一般管理業務として、324万円を増額補正しております。

御存じのとおり、今年6月2日に地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法

等の一部を改正する法律が公布されたところであり、介護保険制度の改正が行われることとなります。今年度中にシステム改修が必要な内容につきましては、高額介護サービス費の見直し、財政調整交付金の年齢区分の細分化、方針認定有効期限の上限延長、適用除外施設における住所地特例の見直し、介護報酬改定となっており、改修に必要となる経費を増額するものでございます。

次に、4款基金積立金・1項基金積立金・1目介護給付費準備基金積立金でございます。001介護給付費準備基金積立金として、5,444万9,000円を増額補正しております。

これは、前年度の歳入歳出差し引き残額から、国や県等への償還金等の調整の結果、実質的な残額を基金に積み立てるものでございます。

次に、6款諸支出金・1項償還金及び還付加算金・2目償還金でございます。001国庫支出金等精算償還金として、3,155万2,000円を増額補正しております。

これは、平成28年度の介護保険事業の精算の結果、介護給費等について、超過交付されました補助金等を国や県等に返還するものでございます。

続きまして、歳入について、御説明させていただきます。

65-8、9ページをお開きください。

3款国庫支出金・2項国庫補助金・4目介護保険事業費補助金でございます。歳出で御説明いたしました介護保険システム改修補助金として、事業費の2分の1である162万円を、また、7款繰入金・1項一般会計繰入金として、残りの162万円を増額補正しているところでございます。

次に、8款繰越金・1項繰越金・1目繰越金でございます。前年度繰越金として、8,600万1,000円を増額補正しております。これは、前年度事業精算に基づく繰越金でございます。

説明については、以上となります。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

三好委員。

○委員（三好睦子君） 65-11ページなんですけど、返還金ですが、これは概算で交付された超過交付ということで、見込みより少なかったということなんです。この概算要求をされるとき——この金額——概算要求ですね。このもとになるっていう

のは介護保険の第5期の実績の、この3,555万じゃなくて、このもとですね——
もとの金額というのは5期の実績をもとにされての概算——交付金の要求だったので
しょうか。何をもとに……でしょうか。27年度でしょうか。5期のでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） ただいまの三好委員の御質問でございますけれども。
補助金等計算する際には、当然のことながら実績を見ることによってですね、動向——
推移等、予測しながら補助金等の請求をすることになります。

したがいまして、28年度分については27年度の動向等、見た上での要求をさせ
ていただいているというところでございます。

○委員長（戎屋昭彦君） その他、質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はござ
いせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） それでは、これより議案第65号を採決いたします。本案に
ついて、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第65号は原案のと
おり可決されました。

次に、議案第66号平成29年度美祢市病院等事業会計補正予算（第1号）を議題
といたします。執行部より説明を求めます。古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） それでは、議案第66号平成29年度美祢市病院等事
業会計補正予算（第1号）について、御説明させていただきます。

白い背表紙の補正予算書の1ページをごらんいただければと思います。

今回の補正の内容につきましては、美祢市病院事業局におきまして、新たな看護師
確保の取り組みとして、UJIターンを希望する看護師に対し、経済的支援を目的と
した制度を実施するために、収益的収入及び支出において、病院経営改革事業費用を
120万、その財源といたしまして、病院医業外収益、他会計負担金になりますけれ
ども、120万円を計上するものでございます。

これによりまして、第2条において、収益的収入及び収益的支出総額を、それぞれ

120万円追加いたしましたして、収益的収入合計を41億9,956万2,000円、収益的支出合計を41億5,262万円とするものでございます。

今回、新たに実施する制度の概要といたしましては、市内在住の学生さんが看護師を目指す際、当然ながら市外の養成機関に進学することとなります。その養成機関によりましては、本市の健康増進課が所管しておりますが、本市同様の奨学金制度を実施されているところもございます。

本市の制度につきましても、最近では一定の周知がなされておりますけれども、学生のなかには本市の制度を知らないまま、市外の養成機関が実施する制度を利用されてる方もおられまして、看護師の資格取得を、その奨学金返済免除のために、その養成機関が指定する医療機関での就業、こちらが一定期間義務付けられまして、その期間内、美祢市へのUターンを希望する場合にも、その借り入れた奨学金の一括返還等により制限される状況がございます。

そういった方、特に美祢市へのUターンを希望してる方を対象といたしまして、かつ、美祢市への定住を要件として、奨学金返還に要する経費について、支援を行うものでございます。

以上で、平成29年度美祢市病院等事業会計補正予算（第1号）に関する説明とさせていただきます。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。安富委員。

○委員（安富法明君） これは、じゃから奨学金の……その何ていいますか、返還を肩代わりするっていいますか、そういうふうな制度っていうことでいいんですかね。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 安富委員のおっしゃるとおり、義務年限中に残っている返済額、そちらのほうを病院事業局のほうで支援を行うと。それと付け加えますと、一応、奨学金制度とならしまして、その支援した額によって、病院事業での就業義務年限、こちらの方を付け加えるものとしております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 安富委員。

○委員（安富法明君） で、なんていうんですかね。この金額なんですけど、これぐらい……120万ぐらいを組んで、もちろん看護師が足りないからっていうことで趣旨

はわかる——わかります。

で、金額的にこれぐらいの補正でちゅうか、額で十分に機能するような感じなんですかね。どれぐらいを——その何ていいますか、その人がどれぐらい借りておられて、どれぐらい、そのあれを持っておられるかっていうのがよくわからないんですけれども。十分なんでしょう——十分じゃないかもしれませんが、その辺はどういうふうにお考えなんでしょうかね。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋経営管理課長。

○経営管理課長（古屋壮之君） 安富委員の御質問についてでございます。現在、健康増進課のほうが所管しております美祢市の看護師奨学金制度、こちらのほうにつきましては1カ月5万円、1年間で60万円の貸与を行うことになっております。

実際、今回計上した120万円、こちらのほうにつきましては返済額60万円の2件程度を、今見込んでおるところでございますけれども。実際本年に入りまして、そういった経済的支援の制度の有無についての照会が管理部のほうに一、二件あります。で、実際にお話を聞いてみると、大体、卒業後2年から3年程度働いておられる看護師の方で、残りが大体60万円を切るような状況だということで、このたび、緊急的かつ速やかに対応するために、一応1件60万円、その2件分として実施させていただきたいということで、今回の計上になったものであります。

今後におきましては、そういった人材の状況だとか、毎年各養成機関のほうに回っておりますので、そういった状況を聞きながら、予算の編成については検討していきたいというふうに考えています。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他、質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 賛成意見ですが、先ほどの平成28年度の決算報告の中で、地方交付税の算定で交付金が減ったという説明がありました。これは、政府の許可——許可病床から稼働病床に変わったので減ったということなんです。今回のこのような条例改正で、医療スタッフをふやすことで、稼働病床をふやして交付金もふやしていただけるように、大いによろしく願いいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） それでは、これより議案第66号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第66号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第73号養護老人ホーム秋楽園組合の解散について、議案第74号養護老人ホーム秋楽園組合の解散に伴う財産処分について、及び議案第75号養護老人ホーム秋楽園組合の解散に伴う事務の承継についてを議題といたします。関連がありますので、執行部より一括して説明を求めます。河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） それでは、議案第73号から議案第75号まで、一括して説明をさせていただきます。

養護老人ホーム秋楽園組合の解散及び財産処分、事務の承継について関連でございます。

議案書については、73-1ページから75-2ページ目となりますので、御準備をお願いいたします。

養護老人ホーム秋楽園組合は、山口市と美祢市により組織しております一部事務組合であり、山口市秋穂にあります養護老人ホーム秋楽園の経営管理に関する事務を共同処理しているところでございます。

この養護老人ホーム秋楽園組合については、構成市でございます山口市と解散に向けた協議を進めていくことについて、さきの6月議会において報告をさせていただくとともに、解散に向けた規約の変更について議決をいただいたところでございます。その後、山口市と具体的な解散協議を進め、協議が整いましたことから、このたび関連する議案を上程させていただいたところでございます。

まず、議案第73号は、平成31年3月31日をもって、組合を解散することについて、地方自治法の規定に基づき議決を求めるものでございます。

次に、議案第74号は、組合解散に伴う財産処分についてでございます。解散後の組合保有財産について、土地、建物等については、解散後も引き続き施設の管理運営を行う山口市に帰属するものとしております。

また、基金については、現在、退職手当資金積立金と施設等維持管理基金の2つがございますが、退職手当資金積立金については、解散後に組合職員を引き受けること

となる市が、引き受け職員に係る退職手当資金積立分を持ち分とするものでございます。

一方施設等、維持管理基金につきましては、平成29年度の管理運営分担金の負担割合に基づき、持ち分とするものでございます。

次に、議案第75号は組合解散に伴う事務の承継についてでございます。事務の承継については、引き続き、施設の管理運営を行う山口市が組合事務や事務に係る書類、帳簿を承継するものでございます。

また、組合運営の最終年度分の決算の審査、認定については山口市が行い、当該、決算認定に関する議会の議決と併せて、山口市から美祢市に通知が行われ、美祢市はこの通知を公表するということとなります。

以上が、秋楽園組合解散に伴う関係議案の説明となります。

○委員長（戒屋昭彦君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認めます。それでは、本案に対する御意見はございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、まず、議案第73号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第73号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第74号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第74号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第75号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに、御異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第75号は原案のと

おり可決されました。

以上をもちまして、本会議で本委員会に付託されました議案13件につきましての審査を終了いたします。

その他、委員の皆様から何かございましたら、御発言をお願いいたします。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 4点あるんですが——委員長、かなり時間がかかると思うんですが、お昼からじゃだめですか。午前中には済まんと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） かなりございますか。

○委員（竹岡昌治君） はい。一つはですね、一般質問で水道料金の統合のところ、若干、消化不良を起こしたのと。もう一つは、PPP、PFIの話はあえて残しました、時間がなかったんで。それが1点。

それから、2点目が環境審の問題で、ちょっと議論を深めていきたいと思います。

それから、3点目がPPPに関係するんですが、コミプラ等ですね、今度下水のほうに統合すると——会計統合やるというのは聞いているんですが、その事業の進め方。

それから、4番目が議会で取り上げました総合支所と、それから、これはたしか大分前にやったと思うんですが、博物館の話。この扱いについてということで、4項目ほどちょっと議論していきたいなと思いますので、できれば午後に。

○委員長（戒屋昭彦君） はい。それでは、この際1時まで休憩いたします。

午前11時54分休憩

午後0時54分再開

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、休憩前に続きまして、委員会を開きます。午前中の続きとしまして、その他の意見についてお伺いしたいと思います。

竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 午後になって、その他で執行部の皆さんには、忙しいところ済みません。居残りさんをしていただきまして、ありがとうございます。

4つ——午前中に4つ質問を申し上げたいというふうにお伝えしましたが、まず、一般質問のときにですね、波佐間管理者、恐らくPPPのことにつけて答弁書を書いておられたんじゃないかなと思うんで、時間がなかったんで、あえて質問はいたしま

せんでした。

料金統合のそのときにお話を申し上げましたが、どうしても激変緩和のやり方、なぜ5トンの水を付与するかと、その根拠といたしますか、どうも18.15%上げるがための逆算をやっていってですね、やったと。そして、最後に逡増をしていくのに3円、原価を3円下げるとか、意味が分からないんですいね。なんぼ議論しても。

それで、その根拠を、まず、ちゃんと言って下さいと言ったけど、市長の答弁は、生活をするためにどうしても必要な水であると、したがって、どうのこうのという話があったんです。さっぱりわかりません。

当然、行政が安定した、そして上質な水を供給していくっていうのは、これは大きな役割、これは大前提になっておりますから、それを論じる気はありません。

ただ、私が申し上げたのは、激変緩和のやり方、これで市議会の皆さん御苦労なされて、議論されたと思うんですが。じゃあ現実には、例えば、美祢が510円上がるのどういうふうにするよ。あるいは、美東の皆さんには四百何ぼだったですかね、下げるのを六百何ぼまでより下げていくよと、そういうやり方が、はたして公正、公平なのかというのが一つの大きな疑問点だったわけですね。

それからもう一つは、例えば、コミプラもちょっと午前中に申し上げましたが、恐らく、会計を統合されてくるだろうと思うんですね。で、会計統合はさておいてですね、大事なのはあの施設を、もうどうしていくのかということも考えていかなきゃいけない。

で、近々宇部市がこのPPP方式ですね、下水道事業を取り組んでいこうという動きがあるなかで、美祢市はそういうことについての取り組みについて、今後の方針といたしますか、そういうものを決めるのが管理者の仕事だろうと思うんで、お聞きをしたいなあと思ったんですね。

確かに、今、国交省の考え方からしたら、人口20万以上のところは、そうした新たな施設をやるときにPPP、もしくはPFI方式がなじむかどうかという検証を一旦して、それから、どちらがいいかというような考え方を示されておると思います。

で、美祢市の場合は二万数千人ですから、義務付けられてはおりませんが、むしろ小規模自治体のほうが、将来的に投資は重なっていくだろうし。

それから、例えば、一般会計に言われている固定資産、これを今から維持、改廃していくとすれば、年間何十億というお金がいるという試算が出ておりますよね。間違

えてたら、また、あとから訂正していただいたらと思うんですね。ここに、美祢市公共施設等総合管理計画というのが出て、この中で記述されておりますから。

そうしたことで、まず、お聞きしたいのはPPP、あるいはPFIと、それから料金統合、どういう——もう一度きちんとしたお答えをいただきたいなというふうに思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 波佐間上下水道事業管理者。

○上下水道事業管理者（波佐間 敏君） 竹岡委員の御質問にお答えしたいと思います。まず、最初に、料金統合のほうの関係についてお話ししたいと思います。

市長が竹岡委員の一般質問に対してお答えしましたのが、まず答申——審議会から答申を受けた答申内容について申し上げましたが、おさらいとしてもう一度、それを申し上げたいと思います。

答申の概要としてはですね、算定期間を平成30年度から33年度までの4年間とする。それから、この4年間の事業に要する総括原価を算定するとともに、料金体系を口径別料金に統一する。1立方メートルの使用から従量料金を適応すること。いわゆる基本料金、基本水量は廃止するということになります。料金単価は5段階逓増制をとることと、答申の結果はなっております。

そうした結果、平均改定率は18.15%、美祢市全体ですね。18.15%の増となる。その中において、現在の——現行の水道料金がそれぞれの地域で差異があるということで、それに対する増減率を平均改定率を申し上げますと、美祢地域では132.5%、美東地域では89.6%、秋芳地域は106.4%となり、それぞれの地域の3地域の改定率が大幅に違うということになります。

こうしたことから、経過措置として、いわゆる緩和策を講じようということと考えたところで答申となっております。その中で竹岡委員言われますように、当初の2年間において、基本水量を5立方メートル、いわゆる5トン付与すること。それから、美祢地域の水量単価を3円減額するという緩和策を掲げております。この基本水量を5トン付与するという緩和策は、いわゆる13ミリ、20ミリの中でも、ひと月に15トン、20トン使用される、いわゆる小口の利用者、市民の大半を占める、生活に密着した方々の最低限の10トンから20トン、毎月使用される……水道料金を支払われる大半の方の中において、小口利用者の方の、いわゆる急激な水道料金のアップを緩和するために、この2年間5トンを付与する方法をとろうという考え方であり

ます。

もう一つの3円——美祢地域において3円、単価減額するという事は、一番増幅の大きな美祢地域において、全体のシミュレーションをした中において、5円減額とか4円減額、3円、2円とか、いろいろやってみましたけれど、その3円の減額のシミュレーションが一番平準化されたといえますか、美東、秋芳地域とのそれぞれの使用水量における料金の変動に、いわゆるそぐうといえますかね、似たような料金逡増型になるというようなことで、3円をというところに落ち着いたというのが現状であります。

これは、算定期間4年間の中での最初の2年間で、この緩和をして、その後は基本水量も3円減額ということも撤廃して、最終的な答申の水道料金体系に変わっていくというような考え方です。

それから、もう1点のPPP、またはPFI方式の取り組みについてということで、御質問がありましたけれど、いわゆる官民連携のPPP方式、民間資金を活用するPFI方式については、水道事業においても給水人口が減少する中において、当然ながら給水収益も減少してきているという厳しい財政状況の中で、効果的に活用ができればというふうに考えており、今後、必要なインフラの更新、維持管理を着実に実施することができれば……このPPP方式、PFI方式を活用して実施することができればですね、水道事業経営の健全化の一躍を担うものであり、官民の役割分担の見直しの面からも有用であるというふうに考えております。

しかしながら、現在のところ美祢市の水道事業としては、美祢市の水道事業と同規模の全国における事業者においてはPPP方式、PFI方式の活用は把握できておらず、効率性及びリスク分担等の効果を確認するに至っていない状況にあります。

先ほど、委員が言われたように、宇部市のほうで下水道事業を今後活用しようという動きがあるという情報も、こちらも把握しておりますけれど、美祢市と同規模の事業者においては、なかなか一歩踏み出せていないというのが現況であります。

これら、官民連携については、今後、手法の採用について、可能性の検討及びその他の諸条件を十分に調査したうえで、検討したいというふうに考えております。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 5トン、なぜ5トンなんですか。3トンで計算されたことがあります。だからね、僕が言っているのは5トンであろうと、1トンであろうと、論理的

に成り立たんの。大半の人が同意しちゃったけど、5トンは全受給者に付与するんでしょ。だから大半じゃないんですよね。

で、何で私がこれだけ言よるかというのと、この料金統合をするのに、美祢の——美祢地域の方が、先ほども話があったように132%上がると。言い方は悪いけど、今まで2,000円ずつ払われていた方が六百何ぼ高くつくと。3,000円近く払っていかなくちゃいけない。片や、美東は今までが高かったからということで89.6ですか、下げなくちゃいけない。ところが5トン付与することによって、これ以上にまた下げると。その辺が私自身も納得できないし、市民の皆さんの意見からしても何でと言われるわけ。やけど、何でと言われるでも私は答えようがないと。5トンという数字は、なぜって言われても言いようがないと、このあいだも申し上げたと思います。

で、本当は、決算会計のときにですね、会計決算のときに聞いたかったんですけど、監査委員は、できるだけ所管の委員会でも黙っちゃいけないことなんで、黙ってましたんですが、この統合の……私はくどいようなけど、なぜ5トンなのか、2トンやったらどうなるという試算をされたうえなのか。それから、3円はこれ理屈合わせ。

18.15にするため、あるいは旧価格。旧価格というのは、今の現状価格と新たな価格との差額が2年間やるとしたら、ちょうどそれほどひかないと、うまく510円の差額が合わせられないという逆算なんですよね、あれ。だから、逆算したのはわかるんです。それはわかるんです。だけど、5トンというのがわからないですね。例えば、美祢の人だけに5トン与えても、またおかしいと、私は思うんですね。

ですから、どうしても上げるほうも下げるほうも同一のパーセントでと言ったのは、例えば、この計算期間が4年であるから、できれば、もし100としたならば、25%ずつ上げるほうも下げるほうもが、やっぱ激変緩和ということに理屈はきちんと、市民の皆さんも決して132円上げることに同意をされての話じゃないんですが、少なくとも、まだ、そのほうが分かりやすいと。

皆さん、おわかりになりました。納得できます、この話が。ただ、あの文章を読んだ限りでは、こんな数字が導かれないんです。私は思うんですが、あくまでも、市長は答申がそうだから、答申がとおっしゃったんです。誰がこれつくったんですか、これを。答申かける前に、たたき台があったはずですよ。激変緩和の。誰がつくったんですか。で、誰かがつくられたと思うんです。そしたら、それにはやはり正当性とあれがあると思うんです。その辺がお聞きしたいんです。

○委員長（戒屋昭彦君） はい、波佐間上下水道事業管理者。

○上下水道事業管理者（波佐間 敏君） ただいまの基本水量の関係ですけれど、最終的に5トンと落ち着いたのは、現行の基本水量が10トン、現行10トンというのが美祢、秋芳ありますけれど、美東も段階的にありますけれど。この10トンに対して、将来的には基本水量なしというところにもっていく段階において、当然、シミュレーションとすれば3トンとか、その他のトン数も試算はしておりますけれど、この審議会での意見とすれば、現行の半分程度というところが将来的になくなっていく場合において、段階としてはいいんじゃないかということでの5トンということで、いわゆる、その他の深い意味での基本水量というものではないかなというふうに思っております。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 時間とつてもあれですから、これは、ちょっと議長のほうにお願いしたいんですね。多分、執行部もこのまんまで、私一人がこの反対したって、多数決で決めりゃいいわけですから、いいんですが。やはり、市民の皆さんにも納得していただかなくちゃいけないし、例えば、議会で政策討論会とか、何かですね、もう少し深く議論ができないものだろうかと思うんですね。その辺はいかがなものでしょうかね。

○委員長（戒屋昭彦君） 荒山議長。

○議長（荒山光広君） 水道料金の統合については、かねてからの懸案で、やっと実現するというごさいますけども。新料金体系について、答申は出ておりますけども、その答申について、特に旧美祢の上げ幅が大きなのということで、市民の理解も必要じゃなかろうかということで、このことについて、議会としてもせつかく政策討論会という場がございますので、会派の皆さんにお諮りをして、政策討論会が実現できるように、また、協議したいと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） わかりました。議長、取り上げようということですから、どこかで、また、議論ができるかと思うんですね。

また、その議論を踏まえて、管理者も来ていただいて、いろいろお互いに議論し、理解を深めていきたいなと思うんですね。

次に、PPPに関連してですね、類似団体、それから類似規模っていいですか、そ

うしたところでは取り入れてないと、こうおっしゃったんですね。

で、私は、例えば、例えばの話ですよ。コミプラなんかのような、ちょっと限定されたところを実証実験したっておかしくはないと思うんですね。ただ、国交省は20万人以上の市に対しては一度それを検証しろと、こうなっているんですが、私は、例えば、それ以下の市町であってもですね、やっぱ、そうした気持ちがあるんかないんか。どういうことかということ、それがやはり判断を誤っちゃうと、市民の皆さんに負担をしてもらわなくちゃいけない。

したがって、その気はあるかないかということをお尋ねしたんですが、お答えはですね、類似規模の市町ではそんなんやっていないと。したがって、どうおっしゃったかわかりませんが、私は、やる気がないんだなというふうな受け止め方をしたんですが。それについて、今一度ですね、導入の意向があるかないか。

これはですね、こないだも申し上げたように、一般会計で言う、建物、固定資産にも関わることなんですね。大きな投資をするときにはどちらがいいか。やはりこれ、一般の企業だったら、絶対検証するんですよ。で、自治体として、そうした検証をするお考えがあるんか、ないんかをお尋ねしたつもりなんですが。類似市町村というか、類似規模のところではしてませんというお答えだけだったんですね。

確かに、官民のリスクが、まだ明確になってないとおっしゃったんですね。ですから、できるだけコミプラのような小さい規模のところで行ってみるのも一つの、今後の大きな、それが次の検証するときの資料になるんじゃないかなというふうに思ったからお尋ねをしたんですが、その辺の意向はいかがなんでしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） 波佐間上下水道事業管理者。

○上下水道事業管理者（波佐間 敏君） 竹岡委員の質問にお答えいたします。

ただいま、秋芳地域のコミプラについての御意見ありましたけれど、このコミプラ施設につきましても、老朽……設備を開始して相当な年数が経っておりまして、設備が老朽化しております。これについての更新といたしますか、新しい事業として、現在、全体計画を立てております。来年、再来年に向けて基本計画を立てようとしているのが、いわゆる、コミプラ事業を継続するのではなくて、公共下水道事業、いわゆる国土交通省の公共下水道の中のメニューの一つとして、取り組めるのではないかとこのように考えて、今……来年、再来年の認可申請に向けての準備を進めております。

そうした中においてPPP、PFIの対象地域には、人口20万というのが一つ

インがありますけれど、事業規模とすれば、10億円を超える部分については、そういう事業があれば、PFIとかPPP活用しなさいよという指針もありますので、この地域、秋芳地域の新しい下水道施設について、その可能性を検討する価値は十分にあるかというふうに考えております。

別に水道事業におきましても、祖父ヶ瀬の浄水場、これも近々に更新時期にきております。そういうものも含めて、そういうPPP、PFI事業が活用できないかということは、検討の余地は十分にあるというふうに考えております。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 一応、考えておるといいますから、これ以上申し上げませんが。一般質問のときにも申し上げました。ライフサイクルコストの話をしましたですよ。これ公共はですね、自治体は単年度の収支が特に考えておられるんで、例えば、投資が100億と120億、いわゆる、イニシャルコストが逆にAが100億、Bの方法が120億としたら20億高いですよ。そうするとね、今までは100億のほうを採用されよったんですよね、自治体は。

で、私が申し上げておるライフサイクルコストというのは、どういうことかという、そのイニシャルコスト、それからその次ランニングコスト、100億かけたほうがランニングコストが安いのか、120億のほうが安いのかという検証がいます。

それから、最後に、全部処分していかなくちゃいけない、そのコスト。いわゆる人間でいったら、生まれたときから死ぬまでの全部のコストを計算してですね、そして、どっちが安くつくかと、これが、いわゆる言い方悪いけど、アセットマネジメント中の一つの一環だと思うんですね。

ですから、今までは単年度で安くつくほうを採用してた。いわゆる、競争入札やって安いほうをしていた。ところが、ランニングコストのところまでは考えてなかった。今後はそれも考えながらやっていかんやいけん。これが国交省が言ってるPPP、あるいはPFI方式と検証しなさいというのは、私は狙いはそこだと思っているんですね。間違っているかもしれませんが、そう思っています。

そうすると、今のコミプラにしてもこちらのメニューがあるよと、では、そちらのほうをやりましょうというんじゃないかと、両方検証したうえで、どちらが最終的なところまで計算をしてですね、市民の皆さんの負担は軽減されるのか。サービスは維持

しながら軽減されるのかという検証が大事だと思うんですね。

これは水道、下水にかかわらず、一般会計の、例えば、庁舎建てるといってもそういう問題でしょうし、総合支所をどうするかというときも、そういう問題が起きてくると思います。

いずれにしても、ぜひですね、そうした検証を重ねながら、将来負担をできるだけトータル的に少なくなるような方法を講じていていただきたいということを申し上げて、これは終わりたいと思います。

2つ目に、今回……あれはどこやったですかいいね、来たのは。企業進出していただきました。していただきまして、豊田化学工業ですか、来ていただきました。

しかしながらですね、美祿市は進出企業もしくは既存企業さんが工場を改廃されたり、新たな設備を入れられるとき細目協定をやっているわけですね。環境審——環境保全のために。

ところが、環境審は、最近1年に1回しか開かれてないんです。それも大体、年度末頃にやられてですね。ですから、環境審の方が情報を知り得るのは、大体、例えば6月頃に技術部会か、専門部会かわかりませんが、技術的に問題はない。そうしますと、これは報告事項としますということで許可されて、環境審にかかるときは報告事項ですからといって、もう工場もでき上がってる。もうすでに稼働しようとしている。

私、環境審そのもののあり方にも問題があるし、なぜ1年に1回かということもあるんです。経費がかかるからと言われるんなら、やめられたらいいんじゃないですか。だって6月頃にもう答申が出てですよ、工事はかかった、完成している。で、3月頃になって、これ報告事項ですよ、御意見ありませんかって、そんなことやったって、逆に経費の無駄。むしろやるのならば、案件が出たとき、報告事項であろうと何であろうと、きちんとやられるなら、それはもう言いませんが。しかも、その環境審の中身については全く公表されてませんね。だから、市民の皆さん、さっぱりわからない。

特に、伊佐地区なんかはわからんまんまで、伊佐地区は伊佐地区として、別にそうした独自の審議会があるからいいんですが。それでも周辺の人たちは、わからんまんま。一体関係者は何しているのと言われても、いやいや、もう報告事項として出されたという程度しか言えないんですね。

そこで申し上げたいのは、例えば、この豊田化学工業株式会社が、いわゆるシンナーやら使うんでしょ。そうすると例えば、大気汚染どうなの、あるいは臭気は、悪

臭は出るの出ないの、水質はどうなのという、聞かれても答えられますか。もうこれはすでに、これ環境審には関係ないんですか。審議会、いわゆる技術部会等には諮らなかつたわけでしょうかね。そうした動き方が全くわからない。住民の皆さんは、ひょっとしたら大気汚染大丈夫なの。いわゆる、ガス漏れ起こしたときにどうなるの、とかね。扱うものが扱う製品ですから、やっぱり不安があるんです。でも、私も環境審の一人ですから、聞かれても答えようがない。その辺で、今後の取り組みについてお聞かせを願いたいと。

それからもう1点、同じ関係なんですが、美祢市のごみ袋。これも実は、お年寄りの方がいつも間違えるからと言って、息子さんがですね、「おい、どねえかならんか」とおっしゃったんですね。美祢市のごみ袋は、あたみに「固形燃料に」と書いてあります。どっちも。なるごみ、固形燃料にならないごみ、なぜ、あたみに固形燃料ってわざわざ書いてあるから、お年寄りが間違えられるそうです。私も1回間違えましたけど。単純に燃やせるゴミ、あるいは色を分ける。もうちょっと、何とか工夫してくれないのと言って、これどっか知りません。どこのか知りませんが、こういうふうに分かりやすうしてくれて持って来られたから、私は預かってきたんですけどね。もう1回皆さん、見てみてください。美祢市のごみ袋。「固形燃料に」ってあたみにあるんですね。それから、お年寄りが間違えるから、うちのおふくろが間違えて困ると言って、苦情を言って来られたんで、わざわざ、これどこかのよその市町村のをもらって来られたんだろうと思うんです。もっと、お年寄りでも分かりやすいような色で分けるか、言葉のあたみに固形燃料という字を書く必要があるんかないか。その辺も、ちょっとお聞きしたいと思うんですが。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋生活環境課長。

○生活環境課長（古屋敦子君） ただいまの竹岡委員の御質問にお答えします。

初めに環境審議会のことについてです。環境審議会は、日常生活において良好な生活環境が保全されることが重要なことであるから、市において環境保全に関し基本的事項を調査、審議するために設置しているものです。

現在は、学識経験者や議会の代表、あと住民代表、事業所の代表、合わせて29人で構成しております。28年度の昨年度の審議会の審議事項ですけれど、確かに、先ほど竹岡委員言われたように、公害防止協定締結企業から設備の移転や新設に伴う公害防止計画が提出された内容を、技術部会で審議したことを報告しております。

先ほど、豊田化学工業のことを申されましたが、豊田化学工業からは、先日、公害防止計画が市のほうに提出をされておまして、現在、技術部会において審議するよう、今、準備を進めているところでございます。

技術部会において、技術部会の中での審議でよいのか、環境審議会全体で審議したらいいのかっていうことは、また、技術部会で審議していただくこととなりますが、先ほど言われたように、年に一回の会議で報告だけというのがどうかという御意見があったということ、また、技術部会のほうで、ちょっとお諮りをしてみたいと思っております。

また、内容が公表されていないということでしたが、今、審議会の議事録等、公表しているわけではないので、それが、どのように公表したらいいとか、例えば、市内の——市が調査をしております降下ばいじんの量であるとか、そういうことが、積極的にホームページ等で公開できるかとかも、併せて検討してまいりたいと思えます。

それから、2点目のごみ袋の件なんですけれど、先ほど言われたように、美祢市においては燃えるごみというか——ごみは燃やさず固形燃料化をするか、固形燃料化をしないかという2通りに分かれているから、ごみ袋の字がそういうふうに記載されているものと思えます。

ただ、色を分けたほうがいいとおっしゃいましたが、色は今分かれておまして、いわゆる燃えるごみ、固形燃料化できるごみは、白い袋に青い字が書いてありまして、燃えないごみ……缶とかビンとかについては、透明で緑色の字が書いてありますので、その辺り、間違える方もいらっしゃると思えますので、今年度作成する分については同様の内容で、もう作成をとりかかっておりますので、また、検討してまいりたいと思えます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） いずれにしても、環境審議会は会長が必要と認めたらできるということになっておりますから、その辺もしていただきたいんですが。過去、何年間かは、ほとんどが報告事項ということで、我々、審議会すら知らない状態のまんまですね、半年過ぎたあとに報告事項として出てきたり。

ですから、そのとき意見を言おうにも、それから、あんまり言っても意味がないし、

もう技術部会でオッケーが出されて、もう、動いているわけですから、その辺の扱いについては、また審議会等、原課のほうでですね、調整をしていただきたいと。

それから、袋についてはですね、あたまの字を、今おっしゃったように、固形燃料化できるものとできないものと、確かにそうなんですね。ところが、お年寄りには固形燃料のあたまが一緒なんで、よく間違えられます。私は一回しか間違えたことないんですが、それでも間違えました。

したがって、明快に、例えば緑色か、赤かとか反対色。ちょっと緑と赤じゃあ同じあれになりますけど、まったく反対色でつくるとか、今後つくられるときに工夫していかれたらなど。

で、固形燃料というものにできる、できないじゃなくって、片方は固形燃料と書く必要はないと思うんですね。そうすると、あたまを見ただけでわかると。これは、何とか工夫していただきたいというのは市民の皆さんの意見ですので、ぜひ、検討していただきたいと。

それから、次に、最後になりますが、これは、市長の裁量権の中での話であって、実は、総合支所の建設経済課の廃止に伴う請願っていうのを、議会では請願が出た以上、議長のほうに取り上げられて、無下に断らずに取り上げられて、それから、議会としても本会議上で、市長のそうした裁量権の中を侵害する気持ちはありませんでしたが、議会は議会としての意思統一は図ったと思うんですね。当然、そのことは、本会議上でやっておるわけでありまして、執行部の皆さんには、議会から何らかのかたちでは出てないと思うんですね。

ですが、執行部の方は十分御承知だろうと思うんです。そこで、請願された方、そして、その後の取り組み……請願した方が、あれから何にもないけどなって言っておっしゃるんで、その辺の取り組み、もしくは、請願者に対しての何らかの回答されたのか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（戒屋昭彦君） 田辺総務部長。

○総務部長（田辺 剛君） ただいま竹岡委員の御質問の総合支所の建設経済課の廃止に伴う請願に関する御質問ですが。これまでの経緯を申しますと、5月1日に請願を出された同じ方が、市長宛てにもほぼ同じ文面の陳情書を出されております。同じ5月1日付で。その陳情書については、市長名で回答は差し上げました。

その後、6月議会に請願が、6月議会で採択されたということで。それ以後の取り

組みということですが、5月1日に、まず組織を3月31日をもって本庁に集約した関係で、総合支所の建設経済課をなくしたんですが、住民の方の御要望もすごかったということで、5月1日にそれぞれの総合支所に、農林課分室というのを設置をして、そして、そこに職員が常時1名張り付くようにという体制を整えました。

そのことについては、5月1日付けで陳情書を提出されたものの回答には、そのことはお知らせをして回答しましたが、その後の議会の請願の採択後については、こちらのほうからは陳情、あるいは請願をされた方については、その後どうなったかというのはお知らせはしておりませんが、8月1日付けで農林課の職員各1名、それから、それぞれの総合支所の総合窓口課の職員1名を、それぞれの総合支所の農林課分室の兼務ということで、実質的には、職員の数はふえてはおりませんが、より窓口の対応をきっちりするとか、あるいは、それぞれの地域の農林行政の担当を明確にすることで、8月1日付けで兼務職員をそれぞれ2名ふやしたということをやっております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） そうしますと、今、総務部長の話によりますと、組織を変える以前のサービスは低下はしてないと、こういう御判断でしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） 田辺総務部長。

○総務部長（田辺 剛君） ただいまの御質問ですが、建設経済課があったときは、農林担当が3名ずつおりましたので、それが1名になって、業務を本庁に集約したということで、地域住民の方にとりましては、身近な対応というような点では低下はしておると思いますが、全体的な農林行政の推進ということでは、ちょっと、まだすぐには効果はでないかもしれませんが、集約することによって、より集中して行政が推進できるというような面も、これから発揮できるのではないかというふうに考えます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） それと非常時の場合、やはり別個にですね、万全な対策をしていただかないと……これも、美東支所やったかなあ、どこやったかなあ。職員さんが、その地域にちょっと偏った配属がされてたような気がしてまして、気になってたんですが。非常時の場合の体制も速やかにできるようにですね、ぜひ、お願いをしたいと

思いますし、その後、どういうふうに、今までどおりのサービスを提供しているかということもですね、請願者の皆様にもお知らせをしていただけたらいかかなと思います。

で、次に、もう一つですね、これもちょっと所管が違うかもしれませんが。美祢のジオの拠点ということだったのですかいね。博物館を、実は……ずばり言えば博物館なんです。改築に関する、たしか要望決議か何か。議会はしながらやったと思うんですね。で、今回も新政会の皆さんが、文科大臣のところまで直接行ってお願いをしようとかいうような、今、動きもあります。

議会側は議会側として決議して、できるだけ、そうしたことに努力をしようとしておりますが、執行部のほうは、これいつだったか覚えてません。今年の1月だったんか、去年だったか覚えてませんが。大分前だったと思うんですね。その後の取り組みについて、もし、説明いただければなと思うんですが、いかがでしょうかね。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 竹岡委員の御質問にお答えしたいと思います。所管は教育経済委員会になろうかと思いますが。この件に関しては、今の取り組み状況っていうことで、おっしゃるように、かつて一般質問に末岡次長のほうがお答えしたかと思いません。

所管をこれまで、教育委員会に世界ジオパーク推進課がございましたので、ジオパーク推進課所管で、秋吉台科学博物館の将来構想についてという検討会を要綱設置で、設けておるところでございます。

その後、所管が変わりまして、現在、観光商工部にジオパーク推進室がございまして、現在の有識者含め教育委員会も入れた新たな検討委員会組織を、今つくって、今年度また会議を開催するという運びになっております。

現状は、以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） はい、済みません。1人45分も使いまして、大変申し訳ありません。

最後に、そうした、私は博物館、でかいのつくれば100億ぐらいかかるわけですが、美祢の場合も観光と絡めたことを考えるのならば、私は、これこそPPP、もしくはPFI方式でですね、一つは投げかけてもいいんじゃないかなという気がいたし

ますが、その辺についてはどうでしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 内閣府のほうではPPP、PFI進めてるわけでございます。

2020年までに、10兆円規模のPFI事業を創出しようという動きでございます。

この背景には、1970年には——橋で例えますと、1万の橋梁ができたわけですが、現在では1,000程度の橋梁の更新にすぎないということで、更新必要額と予算確保可能額、この差がバジェットギャップというわけですが、これが、人口減少加味して0.38と——38パーセントという試算も出ているわけでございます。当然、施設更新には莫大な費用がかかるわけでございます。PPP、PFI含め、資金調達をいかにするかということが、今後の方針が可能かどうかということにかかってくるかと思えます。当然、PFIを検討しながら、また、いろんな資金調達の方法を模索しながら、今後、検討してまいりたいということが、それを大前提に検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） どうも、副市長のほうから強い意志をお聞かせいただきました。ありがとうございました。

私も、実は先週の日曜日、阿蘇の長陽大橋開通しましたよね、8月の27か8に。で、ちょっと行って見ました。なら本当、悲惨な状態。あれは地震、天災によって橋が落ちたり、崩れたりしたわけですが。今、副市長がいみじくも言われたように、道路、橋、いわゆる昭和の初期につくったものが、いまだに残っている。いつ通れなくなるのか、いつ落ちるかとかいうような状態があると思うんですね。

そうした悲惨な状況を見たときに、今後、市民の皆さんに提供する社会資本って言いますか、この固定資産が本当に膨大なお金がいるという中で、特にきょう、お昼から私がPPP、あるいはPFI方式を御提案申し上げたんですが。ぜひ、先ほどのコミプラも含めて、あるいは、博物館もそれぞれの事業を取り組むときに、いわゆるライフサイクルコストを検証しながら、ぜひ、取り組んでいただきたいということを要望申し上げまして、終わりたいと思います。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他、委員の皆様から何かございませんか。末永委員。

○委員（末永義美君） 今回の一般質問の中で、お時間があつた場合に課長を通して大野部長のほうにお伺いはしようという打診はとってましたので、この場をちょっと借りまして改めてお伺いをします。

念願の病児、病後児保育のことについてですね、その辺の、今、今日、当日、現在での進捗状況と先ほどの環境審ではありませんけども、この内容が短い時間で、西岡市長のほうも大きく取り組むという強い意志を持った内容とはいえ、その内容をどこで、どのようなメンバーの方々に、いろいろな物事が進んでいるのか。その辺を含めまして、まずは、今現在のところの見通し。もし、何かこう課題があれば課題も含めて、お話できる範囲をお伺いします。よろしくお願ひ申し上げます。

○委員長（戒屋昭彦君） 大野市民福祉部長。

○市民福祉部長（大野義明君） それでは、ただいまの末永委員の御質問にお答えいたします。

まず、所管課は地域福祉課のほうで考えております。現状では、まず、市立病院の西側に位置しますが、職員駐車場の中——病院職員のG棟という宿舎があるんですけど、その隣に、今病児保育所を、今、建設する予定で今進めております。

で、県とも協議を既に始めておまして、この8月の25日に県のほうに建設の要望書を出しております。このまま順調にいけば3月頃、短期というか、早期着工の申請の受け付けがありますので、そちらのほうの申請をいたしまして、来年の4月から5月には内示のほうが出ると思っております。それを受けて、すぐ設計にかかります。それが設計を発注して、完成するのが秋頃——9月ぐらい、それからその設計ののち、今度は施設の入札をいたしまして、来年の3月の頭には、もう、ほぼ施設が完成するんじゃないかと（「再来年ですね。」と発言する者あり）再来年ですね、再来年の……。

で、その間に保育士、あるいは、看護師等が必要となってきますので、その辺の採用のあり方、あるいは、研修のあり方等も検討しながら、再来年の4月の早い時期には、年度入って早い時期にはオープンというか、実際に営業、運営できるように考えております。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 末永委員。

○委員（末永義美君） 今お聞きしまして、病院内の開設と思ってましたが、病院内感

染とかいろいろな問題がありますから、いろんなこと鑑みて、今、駐車場の中に新たに建物を建てるってことをお聞きしまして、思ったよりも、予算も思いもかけてくれたというふうにびっくりしながらも、たくさん今この病児、病後児は先進事例ありますんで、どこかしらのよりよい先進事例等を参考にされたのかと思いますけども。中でも、西岡市長があれほどの意気込みを持ってらっしゃいましたので、美祢市における病児保育の目玉とは言いませんが、何かしら特色みたいなものを考えられてるかということと、これから、また、約1年以上あるとしましては、これから協議会、審議会、いろんなどという冠をつけるかわかりませんが、いろいろな市民のニーズ——これは答えれる、答えれないの不可はともかくとしても、パブリックコメントを含めた、その今まさに、1日も早くそれが欲しいと思っている子育て真っ最中の家庭の方はもとより、これから結婚するとか、出産を考えているとかという幅広い若手の、若者世代の方々を中心にした……方々の意見を聞き入れながら、要は、この開かれた市政と同じように、少しでも多くの方々の声を聞いて、少しは思いを汲み上げてといたしますか、そういったような、市民を少し近く感じてもらえるような市民の声を吸い上げるというかたちは、これからの中で、そういう会といたしますか、そういう可能性は考えられるのか、いや、もうないのかはどの辺でしょうか。お伺いします。

○委員長（戒屋昭彦君） 大野市民福祉部長。

○市民福祉部長（大野義明君） ただいまの御質問にお答えいたします。

これから、どういうふうな運営、あるいは市民の声を活かしていくか、取り上げていくかということでございますけど。そういった、当然のことながら、利用される子育て世代と申しますか、そういった世代の方の意見を、今後、聞く必要があると思います。

だから今、子育て支援会議とか、あるいは、今後子育て世帯と支援センターとか、そういったものを設置するように、将来的になると思いますので、そういった機関も含めて、いろいろ市民の声を聞く、吸い上げる、そういった対策を今から考えていこうというふうに思っています。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 末永委員。

○委員（末永義美君） ここからは要望ですけれども、お考えにはあるとは思いますが、小さな子どもたちが登園、登校されて、その学習の最中に発熱するとか病気

になったときに、この病児保育のほうの担当部局のほうに親よりも先に電話も入り、仕事中的お母さんやお父さんの代わりに学校や幼稚園まで、保育園までも、担当職員がお迎えに行ってお子さんを預かって、病児保育センターのほうでお預かりし、そこでお母様お父様のお迎えを待つという、こういうきめ細かいといえますか、本当にあってよかったと思えるような充実した内容を、ぜひ、御検討のうえ実現できるようによろしく願い申し上げます、要望、質問を終わります。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 竹岡委員さんの環境問題の件に関連してですが、大気汚染の測定事業なんですけど、この目的が、工場の煙突や鉱山から排出されるばいじんとかの測定となっております。

で、野外に雨水とか確井とか沈殿物とか、こういった排出するばいじんの地面に落ちる測定ですかね、そういった設備がデジポットでしたっけ、ちょっと名前を——デジポットだったような気がするんですけど。これが、美祢市内に27カ所設置されておりますが、秋芳地域や美東地域にはこの設備がないので、今回のこの測定器も設置していただきたいと思いますが、お考えをお尋ねいたします。

○委員長（戒屋昭彦君） 古屋生活環境課長。

○生活環境課長（古屋敦子君） ただいまの三好委員の御質問にお答えします。

先ほど言われた降下ばいじんの測定器ですけど、デポジットと申しまして、デポジットによる降下ばいじん量を市内の27カ所で測定をしております。

この27カ所になった経緯というのもありまして、伊佐地区、吉則地区、それから重安、麦川地区の工場の多い地帯を中心に測定しております。その後、豊田前公民館、厚保公民館、於福公民館の3カ所でも、測定を開始しておるんですが、それについては、恐らく市内でどのように違いがあるかっていう比較対象のために設置したのではないかと考えております。

ここ数年の結果を見ておりますと工場地域、それと工場のあまりないような豊田前、於福、厚保公民館においても、数値はそれほど変わっているものではございません。

なので、現時点では、27カ所をふやすということは検討しておりませんが、今後また考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） ないようでしたら、これにおきまして本委員会を閉会したいと思います。御審査、御協力、誠にありがとうございました。お疲れ様でございました。

午後1時59分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成29年9月6日

総務民生委員長